

研究者 総覧 05



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

新潟国際情報大学の教育研究者総覧について

本学は平成6年の春に開学し、12年目を迎えました。平成3年からの大学設置基準の大綱化の中で、21世紀に向けて開学した大学であります。

大学創立の理念と目的から、国際的視野を持ちながら国際化、情報化された我が国の社会で役立つ、意欲あり、健全で人間性豊かな人物を育成することを目的としております。情報文化学部1学部の下に情報文化学科と情報システム学科の2学科があります。情報文化学科では、全学生の実用英語は必修で、このほかに英語、中国語、韓国語、ロシア語の中のどれか一ヶ国語を選択し、5ヶ月間の当該国大学留学を含めて習得します。同時に、異文化・社会を我が国の文化・社会と対比しつつ理解し、社会で役立つ人財を育成することを目的としております。一方、情報システム学科では、実際に役立つ濃厚な英語学習を全学生に必修とし、カナダの大学への短期留学では英語を学ぶと共に現地企業で情報システムの実際を学びます。そして、本校でグローバルに構築されつつある情報システムの理論と実際を会得し、社会の種々の分野でのその実際的応用を学び、社会でその能力を活用しうる人材を育成することを目的としております。

また両学科において、教養教育と少人数教育により、心温かく、人間性豊かな人材の育成を心掛けています。

このような大学の理念に従い、目的を完遂すべく教職員の人達が集まりましたが、情報文化学科には米国、中国、韓国、ロシア出身の教員もおり、この人達は日本語も普通に話しています。情報システム学科では企業出身の教員が多いのも特徴であります。本学は総合大学ではなく、設置学科数も限られていますので焦点を絞って教育を行うことが出来ます。学生諸君にとって大変恵まれた教員構成ではないかと思えます。職員の人達は比較的若い人達が多く、本学の益々の発展を心に留めて努力しておりますが、機会に応じ大学の経営、運営などに関連する会議や勉強会に出席しております。

貴重な経験を持つ教職員が多いため、新潟県内外の諸大学の非常勤講師、県内官公庁の委員会委員、新潟県及び県内市町村の生涯学習や講演会の講師などを務める人達も多く、企業からの相談を受ける人もあります。また本学の新潟中央キャンパス（新潟市上大川前通7番町、柗谷小路角）では4年次生を主とする教育、研究のほか、昨年春からこの中の新潟

研究者総覧

05

国際情報大学エクステンションセンターでは生涯学習講座を開設しています。1年を前期・後期に分けて開設していますが、大変好評で沢山の社会人、学生の人達が参加しております。本年度前期には38講座が開講されます。

この研究者総覧は本学の教員同士がお互いを知るため、同時に本学の職員、学生が教員の人達を知るのに役立つのは申すまでもありませんが、それよりも、他大学や高等学校の教職員の方々や、新潟県内外の企業や官公庁の方々など沢山の方々に本学の教員を知って頂きたいと思うのであります。本書をご覧頂き、ご意見、ご相談、ご希望がございましたら遠慮なく本学宛、ご連絡頂きたいと存じております。

以上、本学の教育研究者をご紹介申し上げますと共に、本学の近況について触れさせて頂いた次第であります。

2005年4月

新潟国際情報大学長 武藤輝一

凡例

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

氏名	フリガナ	ローマ字
	性別	
生年月日		
連絡方法		
学位		
職歴		
研究分野		
主要業績		
所属学会 その他		

収録内容

平成17年4月1日現在で本学に在職する専任の教員（教授、助教授、講師並びにインストラクター）を収録し、記載事項については、平成17年4月1日現在のものとした。

掲載順

学長並びに本学を構成する教員を学科毎に掲載し、その所属ごとに教授、助教授、講師、インストラクターの順とした。

掲載事項

- 氏名** フリガナ ローマ字を付記。なお、旧姓又は通称名の併記は、氏名の下段に()書きとした。
- 性別** 男・女の別を記載。
- 生年月日** 西暦で記載。
- 職名** 現在の職名及び()書きで就任年月を記載。学部長、学科長にあっては、その職名を記載。
- 連絡方法** Eメール(電子メール)アドレスを記載。
- 学歴** 大学等及び大学院を記載。なお、大学院博士課程の単位取得満期退学も記載。
- 学位** 学位名、授与大学名、取得年月を記載。
- 職歴** 職名、在職期間を併記。(間近の経歴を含む。)
- 受賞歴** 主要な経歴学術に関する受賞状況について、賞の名称、受賞年月を記載。
- 研究分野** 現在の研究テーマについて記載。
- 主要業績** 過去に発行した著書・学術論文のうちから主なものをその題名、発行年月、誌名・発行所を記載。
- 所属学会** 主なものを記載。
- その他** 所属する委員会や研究会等、特記すべき事項を記載。

目 次

学長	5
情報文化学科	8
市岡 政夫	10
臼井 陽一郎	11
區 建英	12
小澤 治子	13
小山田 紀子	14
澤口 晋一	15
高橋 正樹	16
グレゴリー ハドリー	17
広瀬 貞三	18
アレクサンドル プラーソル	19
安藤 潤	20
越智 敏夫	21
熊谷 卓	22
小林 元裕	23
佐々木 寛	24
申 銀珠	25
長坂 格	26
矢口 裕子	27
ブライアン ダン	28
ハン リー イェン	29
情報システム学科	30
赤木 敏子	32
大竹 康夫	33
苅部 恒徳	34
岸野 清孝	35
近藤 進	36
高木 義和	37
竹並 輝之	38
槻木 公一	39
永井 武	40
樋口 光明	41
藤瀬 武彦	42
山口 直人	43
渡辺 忠	44
青淵 正幸	45
石井 忠夫	46
桑原 悟	47
小宮山 智志	48
平田 透	49
大山 毅	50
小野 陽子	51
河原 和好	52
佐々木 桐子	53
山田 尚史	54



学 長

氏 名	ムトウ テルカズ 武藤 輝一 MUTO Terukazu
性 別	男
生 年 月 日	1929年8月5日生
職 名	学長 (2000年4月)
連 絡 方 法	E-mail : muto@nuis.ac.jp
学 歴	1954年 新潟大学新潟医科大学医学科卒業 1959年 新潟大学大学院医学研究科博士課程修了
学 位	医学博士 (新潟大学、1959年3月)
職 歴	1970年10月～1992年9月 新潟大学医学部教授 1987年 6月～1989年6月 新潟大学医学部付属病院長 1989年10月～1992年1月 新潟大学医学部長 1992年 2月～1998年1月 新潟大学学長 1998年 4月～2000年3月 長岡赤十字病院長 2000年 4月～新潟国際情報大学学長
受 賞 歴	第35回新潟日報文化賞 (1982年)

研究分野 消化器外科学、外科学一般

1.消化器癌の外科

キーワード：消化器外科、癌

2.外科領域における代謝と栄養

キーワード：外科、代謝、経静脈栄養、経腸栄養

主要業績 著書

①『新外科学体系』30巻・52冊、編集・執筆、東京、中山書店、1993年1月

②『標準外科学』第1版－第8版、監修・編集・執筆、東京、医学書院、1976年6月－1998年5月

論文

①「これからの外科系専門医制度」日本外科学会雑誌 102巻3号、291-293頁、2001年3月（単著）

②「21世紀での胃癌撲滅に向けて」学術の動向 6巻12号、86-88頁、2001年12月（単著）

③「術者の心構え」外科 64巻3号、342-342頁、2002年3月（単著）

④「言葉の遣い方」消化器病の臨床 6巻2号、222-223頁、2003年4月（単著）

⑤「消化器病の診療研究に思うこと」書名『消化器病の診療研究に思うこと』編集:寺野 彰、293-294頁、2003年10月、（単著）メディカルビュー社（東京）

⑥「異状死の届出に関連しての提言」日本外科学会雑誌 104巻11号、805-806頁、2003年11月（単著）

所属学会 日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会

日本外科代謝栄養学会、日本静脈・経腸栄養学会

日本小児外科学会、日本癌治療学会、日本癌学会、日本医師会

その他 第17期、第18期日本学術会議会員（1997年7月～2003年7月）



情報 文化学科

市岡 政夫

白井 陽一郎

區 建英

小澤 治子

小山田 紀子

澤口 晋一

高橋 正樹

グレゴリー ハドリー

広瀬 貞三

アレクサンドル プラーソル

安藤 潤

越智 敏夫

熊谷 卓

小林 元裕

佐々木 寛

申 銀珠

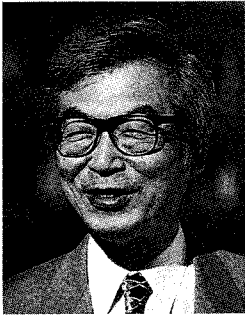
長坂 格

矢口 裕子

ブライアン ダン

ハン リー イェン





	イチオカ マサオ
氏名	市岡 政夫 ICHIOKA Masao
性別	男
生年月日	1939年12月14日生
職名	教授 (1994年4月)・情報文化学部長
連絡方法	E-mail : ichioka@nuis.ac.jp
学歴	1963年 早稲田大学第一文学部露文専修卒業
学位	文学学士 (早稲田大学、1963年3月)
職歴	1992年～1994年 新潟市国際文化部長 1993年～1995年 (財団法人) 環日本海経済研究所所長
研究分野	環日本海圏の一地域でもあるロシア極東。日・ロ関係の主要な舞台は常に極東の地にあった。それにも拘わらず、極東に関する研究に対しては、これまで必ずしも大きな関心が払われてきたとは言えない。日・ロ関係が大きく転換しようとしている今日、極東研究は日・ロ双方にとってますますその重要性を増している。また、戦後の日・ロ(ソ)関係のなかで見過ごすことができないのが、いわゆる民間外交である。特に、この分野で新潟が果たしてきた役割は小さくない。新潟を中心とする「自治体外交」についても、環日本海圏構築の立場から研究を続けていきたい。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ①『自治体の国際交流』(共著)(学陽書房、1984年) ②『自治体の国際政策』(共著)(学陽書房、1988年) ③『自治体外交』(単著)(日本経済評論社、2000年) <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「日本海を囲む輪を」(世界 1991年3月) ②「環日本海経済圏の主役は新潟」(エコノミスト 1991年5月) ③「環日本海経済圏の将来像」(世界経済評論 1995年4月) ④「環日本海の外資導入」(ユーラシア研究 1997年1月)
所属学会	ロシア東欧学会 日本ロシア文学会 環日本海学会
その他	モスクワ国立大学留学 ロシア語教授法 (1967～1968年) 極東国立総合大学準教授 ロシア極東 (1991～1992年)



氏名 白井 陽一郎
性別 男
生年月日 1965年8月10日生
職名 教授(2005年4月)
連絡方法 E-mail : usui@nuis.ac.jp
学歴 1989年 早稲田大学社会科学部卒業
1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
学位 修士(早稲田大学経済学研究科)、MA by research(リーズ大学法学部)
職歴 1994~1996年 早稲田大学社会科学部助手
研究分野 欧州統合論、EUの統治と法秩序、EUの環境政策と環境法。
主要業績

ウスイ ヨウイチロウ
白井 陽一郎 USUI Yoichiro

1989年 早稲田大学社会科学部卒業
1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
修士(早稲田大学経済学研究科)、MA by research(リーズ大学法学部)
1994~1996年 早稲田大学社会科学部助手
欧州統合論、EUの統治と法秩序、EUの環境政策と環境法。

論文

- ① 'The Principle of Environmental Integration in the European Union' 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号、2005年3月。
- ② 「EU環境法とポスト国民国家の言説：刑事罰適用と市民の司法アクセスをめぐる」中村民雄編著『EU研究の新地平：前例なき政体への接近』ミネルヴァ書房、2005年2月。
- ③ 「EU：欧州統合の意味変容」小川有美・岩崎正洋編著『アクセス地域研究Ⅱ：先進デモクラシーの再構築』日本経済評論社、2004年8月。
- ④ 「EC環境立法の展開と共通意味世界の構成：社会構成主義の観点から」『新潟国際情報大学情報文化学部起要』第6号、2003年3月。
- ⑤ 「EUの環境保全とコミュニティ」田村正勝編著『甦るコミュニティ：哲学と社会科学の対話』所収、文眞堂、2003年4月。
- ⑥ 'Evolving Environmental Norms in the European Union' ,*European Law Journal*,9:1,2003。
- ⑦ 「EUの特異性と規範の進化」『社会科学研究』第54巻、第1号、東京大学社会科学研究所、2003年。
- ⑧ 「EC環境レジームの形成と欧州司法裁判所の役割：社会構成主義(Social Constructivism)の観点から」『経済社会学会年報』第24号、2002年10月。
- ⑨ 'Norm Evolution in EC Environmental Law' *Constitutionalism Web-Papers (ConWEB)* No.1/2002。
- ⑩ 「EU研究における統治(Governance)論の射程」『新潟国際情報大学紀要』第5号、2002年3月。
- ⑪ 'Governance, Legal Order, and Social Integration: Reviewing New Governance Approaches in EU Studies' 『新潟国際情報大学紀要』第3号、2000年3月。
- ⑫ 「EUの政治システムをめぐる問題状況」『新潟国際情報大学紀要』第2号、1999年3月。
- ⑬ 「EC環境政策の新展開とローカル環境イニシアティブ」『経済社会学会年報』第20号、1998年9月。
- ⑭ 「ヨーロッパ統合の新展開：主権国家システムのゆらぎ」田村正勝・白井陽一郎著『世界システムの「ゆらぎ」の構造』早大出版部、1988年2月
- ⑮ 「EUの通商戦略とWTOへの対応」『外交時報』第1331号、外交時報社、1996年9月。
- ⑯ 「EUにおける近代国家の変容と地域政策の展開」『ソシオ・サイエンス』第2号、早稲田大学大学院社会科学研究所、1996年3月。
- ⑰ 「EUにおけるサブシディアリティーの原理と協調的連邦制の概念」『ソシオ・サイエンス』第1号、早稲田大学大学院社会科学研究所、1995年3月。

所属学会

UACES (英国EU学会)、EUSA (米国EU学会)、日本EU学会、経済社会学会



氏名 区 建英 OU Jianying
 性別 女
 生年月日 1955年10月27日生
 職名 教授 (1998年4月)
 連絡方法 E-mail : ou@nuis.ac.jp
 学歴 1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業
 1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業 (文学修士)
 1993年 東京大学総合文化研究科博士課程修了
 学位 博士 (文学、東京大学、1993年3月)
 職歴 1984～1993年 (中国) 暨南大学歴史学部専任講師
 1988～1995年 学習院大学文学部兼任講師
 1993～1994年 東京大学教養学部客員研究員
 1994～1997年 新潟国際情報大学助教授
 研究分野 中国の民主化と多民族社会。中国は発展途上国として、また多民族国家として様々な苦悩を抱えている。私は主として、近代中国の民主化と民族のあり方に関する思想や論理の変化を解明し、これによって、現代中国社会のあり方を規定する諸要因を把握したい。その手がかりとして研究している中国の思想家は嚴復である。また、比較研究という視点から、福澤諭吉の思想をはじめ日本近代思想を研究している。同時に、グローバリゼーションにおける中国の思想や論理の変遷にも注目していきたい。
 主要業績 著書
 ①『日本的市民社会』(監修)(新世紀出版社 1992年)
 ②『福澤諭吉と日本近代化』原著者・丸山真男(編集・翻訳)(学林出版社 1992年)
 ③『近代日本と東アジア』(共著)(筑摩書房 1995年)
 ④『最新教科書・現代中国』(共著)(柏書房 1998年)
 ⑤『日本立憲政治の形成と変質』(共著)(吉川弘文館 2005年)
 論文
 ①「中国における福澤諭吉理解」(日本歴史学会編 日本歴史 1992年2月号)
 ②「福澤諭吉研究と丸山真男」(みすず書房 みすず 1992年10月号)
 ③「励みと悲しみ——近代中国と日本」(岩波書店 世界 1995年3月号)
 ④「丸山真男における国民国家と永久革命」(歴史学研究会編 歴史学研究 1998年3月号)
 ⑤「嚴復の政治学における国家理論」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第17巻)
 ⑥「嚴復の老荘注釈における意味」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第18巻)
 ⑦「嚴復の『天演論』における進化論の受容」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第19巻)
 ⑧「異文化の衝突と融合——中国近代文化に関する嚴復の模索」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第6号2003年3月)
 所属学会 中国社会文化学会・アジア政経学会・政治思想学会
 中国・中国日本史学会(理事)
 アメリカ・American Political Science Association
 その他 1986年に東京大学大学院で近代日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また慶應義塾福沢研究センター、東京大学教養学部の客員研究員を兼務した。



氏名 小澤 治子 OZAWA Haruko
 性別 女
 生年月日 1956年4月27日生
 職名 教授（1999年4月）
 連絡方法 E-mail : haruko@nuis.ac.jp
 学歴 1979年 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業
 1986年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学
 学位 博士（法学）（慶應義塾大学、2000年3月）
 職歴 日本国際問題研究所ロシア研究センター研究員
 1996年 新潟国際情報大学助教授
 研究分野 主な研究分野は、20世紀の日ソ・日ロ関係の歴史を東アジアの国際関係の中で考察することである。特に1917年のロシア革命、また第2次世界大戦、さらにはペレストロイカからソ連解体にいたる時期に関心をもって研究を進めてきた。
 主要業績 著書
 ①『ロシアの対外政策とアジア太平洋—脱イデオロギーの検証』（単著）（有信堂、2000年）
 ②『日本の岐路と松岡外交—1940～41年—』（共著）（南窓社、1993年）
 ③『アジアの中の日本と中国—友好と摩擦の現代史』（共著）（山川出版社、1995年）
 論文
 ①「ソビエト政権初期の対日政策（1917.11～1921.8）—対米政策との関連で」（慶應義塾大学法学研究会法学研究第63巻第2号、1990年2月）
 ②「ゴルバチョフ政権と日米関係—安保条約容認をめぐる対日政策形成機構の認識を中心に」（ソ連研究第11号、1990年10月）
 ③「ソ連における日本軍国主義観—ブレジネフからゴルバチョフへ—」（外交時報第1276号、1991年3月）
 ④「真珠湾とソ連外交—1941年日本をめぐる米ソ関係」（軍事史学第27巻第2・3合併号、1991年12月）
 ⑤「ワシントン会議とソビエト外交—極東共和国の役割を中心に」（政治経済史学第307号、1992年1月）
 ⑥「アメリカ国務省の対ソ認識（1917.11～1918.7）—駐ロシア大使フランスの役割を中心に」（慶應義塾大学法学研究会法学研究第66巻第2号、1993年2月）
 ⑦「モスクワと極東、アジア・太平洋—ロシアの対外政策路線の一考察」（外交時報第1302号、1993年10月）
 ⑧「ペレストロイカとソ連のアジア・太平洋観」（ロシア研究第18号、1994年4月）
 ⑨「冷戦構造崩壊後のロシアの対外政策—中東欧の位置づけを軸に」（慶應義塾大学法学研究会法学研究 第67巻第12号、1994年12月）
 ⑩「NATO拡大問題とCIS—ロシアの対外政策における位置づけ—」（新潟国際情報大学情報文化学部紀要第1号、1998年3月）
 ⑪「ロシアの対外政策における中国—戦略的パートナーシップの限界—」（新防衛論集第25巻第4号、1998年3月）
 ⑫「APEC加盟問題とロシア—アジア太平洋国際経済協力体制におけるロシア極東」（海外事情 第46巻第9号1998年9月）
 所属学会 ロシア東欧学会・日本国際政治学会・アジア政経学会・軍事史学会・ロシア史研究会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

オヤマダ ノリコ
小山田 紀子 OYAMADA Noriko

女

1953年11月27日生

教授 (2005年4月)

E-mail : oyamada@nuis.ac.jp

1978年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業

1984年 津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程単位取得満期退学

国際学修士 (津田塾大学、1981年)

1984~1990年 津田塾大学国際関係研究所研究員

1987~1989年 日本学術振興会特別研究員

1987~1991年 神奈川大学外国語学部・法学部非常勤講師

1992~2005年 吉備国際大学社会学部専任講師・助教授 (1995年~)

研究分野

マグレブ近現代史。北西アフリカのマグレブ (狭義には、チュニジア・アルジェリア・モロッコの旧フランス植民地をさす西方アラブ圏諸国) の地域研究を行ってきた。とりわけアルジェリアのフランス植民地化の歴史と脱植民地化の問題を研究対象としている。

主要業績

著書

①『アルジェリアの農業』(共著) (1998年、国際農林業協力協会)

②『イスラーム研究ハンドブック』(共著) (1995年、栄光教育文化研究所)

③『イスラーム事典』(共著) (2002年、岩波書店)

論文

①「フランス植民地化前アルジェリアの土地制度」『国際関係学研究』第8号、津田塾大学、1982年3月

②「独立後のチュニジアにおける農業政策の展開」『国際関係研究所報』第17号、津田塾大学、1985年3月

③「独立戦争前夜のアルジェリアにおける農業構造—1950・51年農業セサス分析に基づく試論—」『国際関係学研究』No.12別冊、1986年3月

④「植民地アルジェリアにおける行政町村の形成」『歴史学研究』第633号、青木書店、1992年6月

⑤「19世紀初頭の地中海と“アルジェリア危機”—トルコ政権崩壊の過程に関する一考察—」『歴史学研究』第692号、1996年12月

⑥「植民地アルジェリアにおける国有地の形成 (1830—1851年)」『吉備国際大学研究紀要』第8号、1998年3月

⑦「アルジェリア・ミチジャ平野における原住民隔離政策と土地所有の再編成 (1852~1864年)」『吉備国際大学研究紀要』第9号、1999年3月

⑧「アルジェリアにおける1863年元老院決議 (土地法) の適用と農村社会の再編—植民地行政町村の形成をめぐる—」『国際社会学研究所紀要』第8号、2001年3月

⑨「幕末日本のフランス公使レオン・ロッシュの生涯 (覚書)—フランス・マグレブ・日本をつなぐ人物像—」『人間と社会—知識人の時代批判』吉備国際大学社会学部共同研究成果報告書、2003年3月

⑩「『アルジェリア社会主義農業の構造改革』再考—1980年代のティアレット県トゥニエ・テル・ハアド郡における生産組織の再編成をめぐる—」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第14号、2004年3月

⑪「アルジェリアにおける1873年ワルニ工法と私的土地所有権の成立」『国際関係学研究』第31号、津田塾大学、2005年3月

⑫「アルジェリア独立戦争と農村社会の変動—住民再編成の政策をめぐる—」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第15号、2005年3月

所属学会

日本中東学会、日本アフリカ学会、歴史学研究会、日本社会学会



- 氏名 澤口 晋一 SAWAGUCHI Shin-ichi
サワグチ シンイチ
 性別 男
 生年月日 1959年2月10日生
 職名 教授 (2005年4月)
 連絡方法 E-mail : sawashin@nuis.ac.jp
 学歴 1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業
 1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得
 学位 博士 (地理学) 明治大学、2001年3月
 職歴 1992～1996年 明治大学文学部・国土館大学文学部非常勤講師
 1994～1996年 東海大学文学部非常勤講師
 1996年 新潟国際情報大学専任講師
- 研究分野 ①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。
 ②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。
- 主要業績 著書
 ①『日本の地形3 東北』(分担執筆) 東京大学出版会 (2005年)
 ②『改訂砂防用語集』(分担執筆) 砂防学会 (2004年)
 ③『百名山の自然学』(分担執筆) 古今書院 (2002年)
 ④『山名・用語辞典』(分担執筆) 山と溪谷社 (1998年)
 ⑤『第四紀露頭集 - 日本のテフラ』(分担執筆) (日本第四紀学会 1996年)
 ⑥『世界の山々』(分担執筆) (古今書院 1995年)
 ⑦『山の自然学入門』(分担執筆) (古今書院 1992年)
- 論文
 ①「Present-day Periglacial Environments in Central Spitsbergen, Svalbard」
 (Geographical Review of Japan, 77-5, 2004年)
 ②「北極圏カナダ、エルズミア島 オーブロイヤール湾地域における第四紀後期の氷河作用」(駿台史学, 123号 2004年)
 ③「Holocene Glacial Advances in Koryto Glacier, Kamchatka Russia」
 (Cryospheric Studies in Kamchatka II 1999年)
 ④「スピッツベルゲン、ニューオールスンにおける地温観測」(地学雑誌107-5 1998年)
 ⑤「北上山地における周氷河性斜面物質移動と凍上に関する野外実験」(地形 19-3 1998年)
 ⑥「スピッツベルゲンの周氷河性岩屑斜面における斜面物質の移動速度とプロセス」(地学雑誌104-6 1995年)
- 所属学会 日本地理学会
 日本第四紀学会
 東北地理学会
 東京地学協会
 日本地形学連合
- その他
 ・1988～1989年夏期、教育社極地プロジェクト研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査
 ・1990～1992年および1994年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査
 ・1997年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カムチャッカ半島調査
 ・2001, 2002年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カナダ北極圏エルズミア島、アクセルハイベルグ島調査。



氏名 高橋 正樹 TAKAHASHI Masaki
性別 男

生年月日 1956年3月1日生

職名 教授 (2005年4月)

連絡方法 E-mail : tmasaki@nuis.ac.jp

学歴 1981年 中央大学法学部政治学科卒業

1990年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程満期退学

学位 法学修士 (中央大学、1985年3月)

職歴 タマサート大学 (タイ) 客員研究員

中央大学法学部兼任講師

白鷗大学法学部非常勤講師

研究分野 政治学の観点からタイ国家研究と、日本とアジアの国際関係を研究しています。とくに現在の研究のテーマはグローバリゼーション時代のタイ国家の変容についてです。タイは歴史的にバンコクを中心に世界経済と密接な関係をもつことで国家形成を行って来ました。その結果、バンコクと周辺地域とは異なる政治経済構造を形成してきました。その二重構造は戦後の近代化時代にも是正されることなく、新たな二重構造を構築しました。それはタイ国家内のバンコクと地方との無関係的な二重構造から、国家統合の促進によって両者が不平等に関係付けられた二重構造といえます。

さらに、90年代以降のグローバリゼーションによって、バンコクの資本や中間層、国家官僚は政府の政策をグローバリゼーションに適合したものに変わっていききました。その結果、タイ国家の機能はグローバル資本とそれと利害を一致させるタイの資本の活動を円滑にする機能を一層促進させていき、資本、中間層、国家官僚のグローバル勢力とそれ以外の勢力との対立を激化させています。その過程でグローバル勢力は国外の諸勢力にその権力を依存する構造を強化して、タイの国家は国民に権力基盤をもたず国民に責任をもたない傾向を強めていくのではないかと考えられます。

主要業績

論文

- ① 「19世紀前半におけるバンコク王朝の政治秩序 ― 交易港と権威交易体制 ―」『法学新報』第96巻1・2号 (中央大学法学会)、1989年11月
- ② State of Thai Studies in Japan, The Thai Seminar of Japan 編、1996年9月
- ③ 「カンボジア紛争とタイ国共産党の崩壊 ― 地域システムとタイ国家システム ―」『中央大学社会科学研究所共同研究報告書』(中央大学社会科学研究所)、1997年7月
- ④ 「アロンの国際関係論の認識論的検討 ― その自然状態を中心に ―」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第1号、1998年3月
- ⑤ 「諸国家システムにおける国民国家」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第3号、2000年3月
- ⑥ 「グローバリゼーションと国民国家 ― 国家の脱国民国家化への視座を求めて ―」『法学新報』110巻5・6号 (中央大学法学会)、2003年8月
- ⑦ 「90年代のタイ：グローバリゼーションとタイの政治変動」『アジア文化研究所年報』(東洋大学アジア文化研究所)、2004年2月
- ⑧ 「戦争、諸国家システム、国家 ― 歴史社会学の可能性と問題点 ―」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号、2005年3月

所属学会 日本国際政治学会・東南アジア史学会・日本政治学会・日本平和学会・環日本海学会・地域文化学会・日本タイ学会・Association for Asian Studies (USA)

その他 タマサート大学 (タイ) 客員研究員 (1986～88年、1992～1994年、2001～2002年)
アメリカでの調査・研究 (1995～1996年)



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

Gregory Hadley

Gregory Hadley

男

1965年3月12日生

教授 (2005年4月)

E-mail : hadley@nuis.ac.jp

1987年 Northwest Missouri State University, USA

コミュニケーション専攻・スペイン語副専攻卒業

1992年 Midwestern Baptist Theological Seminary, USA

神学専攻修士課程修了

1997年 University of Birmingham, UK

応用言語学専攻修士課程修了

学位
職歴
研究分野

Master of Divinity, Master of Arts (TEFL/TESL)

1997-2000年 長岡工業高等専門学校外国人教師

① Personal Construct Repertory Gridsによる社会的、教育的価値観の異文化間
リサーチ。

② ユダヤ・キリスト教の信仰と倫理が西洋文化の形成に及ぼした影響。

③ 日本の大学における効果的な英語教育カリキュラムの開発。

主要業績

論文

① 『Classroom Teachers and Classroom Research』 (共著) (全国語学教育学会、1997年)

② 「英語に対する学生の不安感—その積極的学習意欲への転換」 (『看護教育』
医学書院、1994年)

③ 「Lexis and Culture: Bound and Determined?」 (『Journal of Psycholinguistic
Research』 1997年)

④ 「Using Corpora with Japanese Beginners」 (『IATEFL Newsletter』 1998年)

⑤ 「Concordancing in Japanese TEFL: Unlocking the Power of Data-Driven
Learning」 (『The Japanese Learner』 Oxford University, 1998年)

⑥ 「An Investigation of Techniques that Encourage and Measure Oral
Communications in Japanese EFL Classrooms」 (『長岡工業高等専門学校
研究紀要』 1998年)

⑦ 「Returning Full Circle: A Survey of EFL Syllabus Designs for the New
Millennium」 (『RELC Journal』 1998年)

⑧ 「Innovative Curricula in Tertiary ELT: A Japanese Case Study」
(『ELT Journal』 1999年)

⑨ 「Constructions across a Cultural Gap」 (共著)
(『Action Research』, TESOL 2001年)

⑩ 「A Forecast for the Early 21st Century」 (全国語学教育学会, 2001年)

⑪ 「Sensing the Winds of Change: An Introduction to Data-Driven Learning」
(『RELC Journal』 2002年)

所属学会

全国語学教育学会 (JALT)

International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL)

大学英語教育学会 (JACET)



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

ヒロセ テイゾウ
広瀬 貞三 HIROSE Teizo

男

1956年1月2日生

教授 (2003年4月)・情報文化学科長

E-mail : hirose@nuis.ac.jp

1979年 早稲田大学第二文学部東洋文化科卒業

1984年 韓国・高麗大学大学院史学科韓国史専攻修士課程修了

文学修士 (高麗大学、1984年2月)

1988～1994年 中央大学経済学部兼任講師 (朝鮮語担当)

1994～1998年 新潟国際情報大学専任講師

1998～2003年 新潟国際情報大学助教授

研究分野

①朝鮮近現代史。

②日本近代土木史。

主要業績

著書

②『ニッポン・コリア読本』(共著)(教育開発研究所、1991年)

③『産業の昭和社會史・12・土木』(共著)(日本經濟評論社、1993年)

④『日本土木建設業史Ⅱ』(共著)(日本土木工業会、2000年)

⑤『日清戦争期の韓国改革運動－甲午更張研究』(柳永益著)(共訳)(法政大学出版局、2000年)

論文

①「19世紀末日本の朝鮮鉱山利権獲得について－忠清道稷山金鉱を中心に」『朝鮮史研究会論文集』22号(1985年3月)167～187頁

②「李容翊の政治活動(1904～1907)について－その外交活動を中心に」『朝鮮史研究会論文集』25号(1988年3月)83～109頁

③「水豊発電所建設による水没地問題－朝鮮側を中心に」『朝鮮学報』139号(1991年4月)1～35頁

④「『官幹旋』と土建労働者－『道外幹旋』を中心に」『朝鮮史研究会論文集』29号(1991年10月)115～137頁

⑤「植民地朝鮮における官幹旋土建労働者－道外幹旋を中心に」『朝鮮学報』155号(1995年4月)1～46頁

⑥「1910年代における道路建設と朝鮮社會」『朝鮮学報』164号(1997年7月)1～55頁

⑦「朝鮮における土地収用令－1910～20年代を中心に」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』2号(1999年3月)1～22頁

⑧「植民地期における治水事業と朝鮮社會－洛東江を中心に」『朝鮮史研究会論文集』37号(1999年10月)107～131頁

⑨「佐渡鉱山と朝鮮人労働者(1939～1945)」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』3号(2000年3月)1～29頁

⑩「三信鉄道工事と朝鮮人労働者－『葉山嘉樹日記』を中心に」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』4号(2001年3月)19～44頁

⑪「『満州国』における水豊ダム建設」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』6号(2003年3月)1～25頁

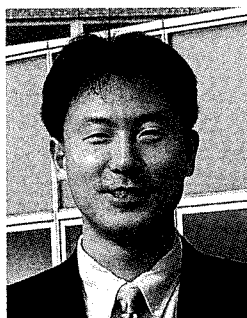
⑫「李清源の政治活動と朝鮮史研究」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』7号(2004年3月)35～55頁

所属学会

朝鮮史研究会・朝鮮学会・九州大学朝鮮学研究会・国際韓国語教育学会・日本植民地研究会



氏名	アレクサンドル プラーソル Alexander Prasol
性別	男
生年月日	1952年10月26日生
職名	教授 (2000年4月)
連絡方法	E-mail : prasol@nuis.ac.jp
学歴	1975年 極東国立大学 (ロシア) 日本語文学科卒業 1978年 モスクワ大学日本語学系修士課程終了
学位	文学修士 (Master of Science Degree モスクワ大学、1979年) 歴史博士 (Doctor of Science Degree 極東大学、2005年)
職歴	1978～1980年 極東大学東洋学部助手 1980～1985年 同学部専任講師 1985～1991年 同学部助教授 1981～1991年 同学部日本語文学学科主任 1991～1994年 新潟大学教養部助教授 1994～1999年 新潟大学人文学部助教授 1999～2000年 新潟大学人文学部非常勤講師
研究分野	大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア史概説とロシア文化論を担当するので、ロシアの過去の文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。現代のロシア人として、激しい移り変わりを体験しつつある新しいロシア連邦からのニュースを分析している。ロシア人の目でみた日本、日本人の目で見たロシア、両国間の交流と諸問題などについて考えている。
主要業績	<p>著書</p> <p>①『日本語会話』(共著) 極東大学出版部 1984年、172頁</p> <p>②『日本語会話における終助詞』(単著) 極東大学出版部 1989年、1999年出版、170頁</p> <p>③『日本教育の成立』(8～19世紀) ダリナウカ出版、2001 (単著)、391頁</p> <p>④「明治時代の教育」(1868-1912) (単著) ダリナウカ出版、2002、358頁</p> <p>⑤「自治体外交」市岡政夫著 (ロシア語単訳) ダリナウカ出版、2004、300頁</p> <p>論文</p> <p>①「現代日本語における接続詞と接続助詞」(修士論文概要) 単著1979年(モスクワ)</p> <p>②「日本語における因果関係を表す接続方法について」(単著) 1992年(新潟大学)</p> <p>③「日本語条件形式の用法をめぐって」(単著) 1995年(新潟大学)</p> <p>④「現代ロシア語における俗語と隠語について」(単著) 1996年(新潟大学)</p> <p>⑤「徳川時代の学校教育」(単著) 1998年(ウラジオストク)</p> <p>⑥「古代日本の教育の成立と最初の教育機関」(単著) 1998年(ウラジオストク)</p> <p>⑦「Some Features Of the Sentence-Final Particles in Japanese」(単著) 1999年(新潟大学)</p> <p>⑧「鎌倉・室町時代の教育」(単著) 1999年(ウラジオストク)</p> <p>⑨「徳川時代の文化と家庭教育」(単著) 2001年(ウラジオストク)</p> <p>⑩「明治初期教育制度の変遷」(1868～1871年) 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号、2002年</p> <p>⑪「現代日本教育について」(単著) Yaponia: Put' Kisti i Mecha, 2002, N3 (モスクワ)</p> <p>⑫「日本教育の起源と展開」(博士論文の概要 ウラジオストク) 2005年</p>
所属学会	日本ロシア文学会、日本教育史研究会、 ヨーロッパ日本研究学会 (European Association for Japanese Studies)



アンドウ ジュン
氏名 安藤 潤 ANDO Jun
性別 男
生年月日 1968年3月25日生
職名 助教授 (2003年4月)
連絡方法 E-mail : ando@nuis.ac.jp
学歴 1992年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業
 1994年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
 2000年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得修了
学位 学士 (経済学) (早稲田大学、1992年3月)
 修士 (経済学) (早稲田大学、1994年3月)
職歴 国土舘大学政経学部・法学部非常勤講師 (2002年4月～)
 中央大学経済研究所特別研究員 (2002年10月～)
 桜美林大学経済学部非常勤講師 (2004年4月～)
研究分野 ①研究テーマ：防衛支出がマクロ経済に与える影響に関する実証分析
 キーワード：防衛支出、externality effect、政府支出の代替性・補完性
 研究形態：個人研究
 ②研究テーマ：行動経済学と経済政策
 キーワード：行動経済学、アイデンティティと経済行動
 研究形態：共同研究
主要業績 **著書**
 ①『Current Issues in Economic Policy』[Chapter 6 A Study on the 'Peace Dividend' under the Clinton's Administration] (共著、2000年12月発行) 早稲田大学現代政治経済研究所、121-131頁、共著者：◎諏訪貞夫、松本保美、松崎慈恵、馬場正弘、鏝田亨、永富隆司
 ②『諏訪貞夫教授古希記念論文集 日本経済の新たな進路—実証分析による解明—』[日本の経済成長と日米安全保障条約に関する—考察～米国軍事支出からのスピル・インに関するexternality effectの実証分析～] (共著、2002年2月発行) 文眞堂、215-228頁、共著者：諏訪貞夫、松本保美、ほか
 ③『IT革命時代の経済と政府』第3部「グローバリズムとIT革命時代のマクロ経済政策」(共著、2002年9月発行) 文眞堂、163-220頁、共著者：長谷川啓之、谷口洋志
論文
 ①「1990年代後半における日米のIT資本とマクロ経済パフォーマンス—ソロ—残差と経済成長に関する—考察—」、(単著、2002年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、71-89頁)
 ②「日米におけるIT資本の労働生産性上昇効果に関する—考察—1990年代後半におけるIT資本の貢献—」、(単著、2003年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第6号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、27-43頁)
 ③「米国における防衛部門経済とマクロ経済成長—Mueller and Atesogluモデルの実証分析とその評価—」、(単著、2004年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第7号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、57-76頁)
 ④「米国における政府支出と民間消費の代替性に関する防衛経済学的考察—年次及び四半期データを用いたEvans and Karras モデルの実証分析—」(単著、2005年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号』、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、51-75頁)
所属学会 日本経済政策学会・情報通信学会・日仏経済学会



氏名	オチ トシオ 越智 敏夫 OCHI Toshio
性別	男
生年月日	1961年7月7日生
職名	助教授（1999年4月）
連絡方法	E-mail : tochi@nuis.ac.jp
学歴	1986年 立教大学法学部卒業 1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学 法学修士（慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月）
職位	1992～1994年 立教大学法学部助手 1994～1996年 シカゴ大学客員研究員 1996年 新潟国際情報大学専任講師 2002～2003年 ニューヨーク大学招聘研究員
研究分野	現代政治理論、アメリカ政治論。 現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主にアメリカ合衆国を中心とした先進資本主義諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。またその議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはあくまでも変革可能な「状況」論理のもとに置かれているということである。
主要業績	著書 ①『現代市民政治論』（共著、世織書房、2003年） ②『講座政治学 第一巻・政治理論』（共著、三嶺書房、1999年） ③『グローバル・デモクラシーの政治空間』（共著、東信堂、1997年） 論文 ①「フィクションに見る市民の司法参加」（法学セミナー増刊Causa第3号、2002年） ②「司法制度改革の政治的意義」（月刊司法改革第20号、2001年） ③「アメリカ合衆国におけるマイノリティ文化の人為的形成」（地域文化研究第4号、2000年） ④「他者理解の政治学：多文化主義への政治理論的対応」（新潟国際情報大学情報文化学部紀要第2号、1999年） ⑤「日本—自閉する国民国家」（私学公論1997年3・4月号） ⑥「政治文化と市民宗教」（立教法学第38号 1994年） ⑦「アメリカ市民社会の自画像」（私学公論1993年10月号）
所属学会	日本政治学会 日本アメリカ学会 American Political Science Association 政治思想学会 地域文化学会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

クマガイ タク
熊谷 卓 KUMAGAI Taku
男

1969年1月25日生

助教授 (2004年4月)

E-mail : takuk@nuis.ac.jp

1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業

2000年8月 広島大学大学院社会科学研究所後期博士課程法律学専攻単位取得退学
法学修士 (広島大学、1994年3月)

1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師

1997年～1999年 広島大学法学部助手

1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師

2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師

2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師

研究分野

国際法、国際刑事法。 テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを経験の研究のテーマとしている。

主要業績

著書

①『ファンダメンタル法学講座 国際法』(共著) (不磨書房、2002年)

論文

①「国家管轄権の域外適用ーアメリカ合衆国反トラスト法を中心にー」(単著)
1995年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第18巻第4号 181頁-208頁。

②「国際テロリズムの法的規制」(単著) 1996年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第19巻第4号 257頁-300頁。

③「欧州連合 (EU) と国際テロリズム」(単著) 1997年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第20巻第3号 203頁-235頁。

④「犯罪人引渡と国際テロリズムーフランス共和国の立法および判例から」(単著) 1998年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第21巻第3号 95頁-133頁。

⑤「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制 (一) (二・完)」(単著) 1999年2月 1999年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第22巻第3号 37頁-60頁 第22巻第4号 117頁-138頁。

⑥「国家テロリズムと国際法ーロッカビー事件を手がかりとして」(単著) 2002年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号 115頁-154頁。

⑦「誰がテロリストを裁くのか?ー合衆国軍事委員会と国際人権法ー」(単著) 2003年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第6号 87頁-101頁。

⑧「判例紹介 テロリストと人身保護請求の可否ーグアンタナモの被拘束者に関する5つの裁判例から」(単著) 2004年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第7号 119頁-159頁。

⑨「判例紹介 対テロ戦争と人権ーグアンタナモの被拘束者をめぐるアメリカ合衆国連邦最高裁の判断」(単著) 2005年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号 119頁-133頁。

所属学会

世界法学会

国際法学会

米国国際法学会



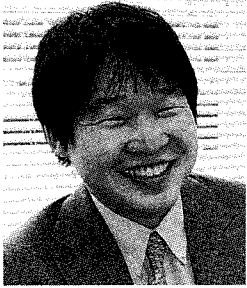
コバヤシ モトヒロ
 氏名 小林 元裕 KOBAYASHI Motohiro
 性別 男
 生年月日 1963年1月1日生
 職名 助教授 (2001年9月)
 連絡方法 E-mail : Kobayashi@nuis.ac.jp
 学歴 1986年 横浜市立大学文理学部文科卒業
 1989年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了
 1990～1992年 南開大学留学
 1996年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期課程退学
 学位 文学修士 (立教大学、1989年3月)
 学歴 1996～1998年 立教大学非常勤講師
 1997～1998年 宇都宮大学・日本体育大学非常勤講師
 1998～2001年 在瀋陽日本国総領事館専門調査員
 2002～2003年 信州大学非常勤講師
 2003～2004年 放送大学(新潟学習センター)非常勤講師
 新潟大学非常勤講師
 研究分野 日中関係論・日中近現代史
 主要業績 著書
 ①『東京裁判資料・田中隆吉尋問調書』(共編、大月書店、1994年)
 ②『天津史—再生する都市のトポロジー』(共著、東方書店、1999年)
 論文
 ①「1920年代天津における日本人居留民」(『史苑』第55巻第2号、1995年)
 ②「中国における日本現代史研究の動向」(『年報日本現代史』第1号、東出版、1995年)
 ③「天津事件再考—天津総領事館・支那駐屯軍・日本人居留民—」(『日本植民地研究』第8号、1996年)
 ④「阿片をめぐる日本と汪兆銘政権の『相剋』」(『年報日本現代史』第3号、現代史料出版、1997年)
 ⑤「Drug Operations by Resident Japanese in Tianjin」(『Opium Regimes—China, Britain, and Japan, 1839—1952』, Berkeley: University of California Press, 2000)
 ⑥「移行期における民営経済—中国・瀋陽にみる歴史的背景と現在」(共著、『東亜』2001年2月号)
 ⑦「国有企業主体地域における私営企業の発展と政治経済体制—遼寧省の事例」(『中国の私営企業等の実態とその国内政治への影響評価』霞山会、2002年)
 ⑧「歴史的“改革”與日本外交—以昭和初期為例」(『全球化與東亜政治、行政改革』天津人民出版社、2003年)
 ⑨「遼寧省の市場経済発展と企業改革・中小企業—瀋陽の事例から—」(共著、『東北アジアビジネス提携の展望』文眞堂、2004年)
 所属学会 日本植民地研究会
 日本現代史研究会
 中国現代史研究会
 歴史学研究会



氏名	ササキ ヒロシ 佐々木 寛 SASAKI Hiroshi
性別	男
生年月日	1966年6月29日生
職名	助教授 (2003年4月)
連絡方法	E-mail : shiroshi@nuis.ac.jp
学歴	1990年 立教大学法学部卒業 1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
学位	法学修士 (中央大学、1993年3月)
職歴	1996年～1998年 立教大学法学部助手 1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員・中央大学法学部兼任講師 2000年～2003年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師
研究分野	「グローバル・デモクラシー (地球民主主義)」の理論的研究 国境を越える社会運動およびNGOの政治学的分析 国際機構の動態に関する理論的・実証的研究 東アジアの安全保障問題をめぐる理論的・実証的研究 現代戦争論
主要業績	論文・その他 ① 「J.ガルトゥング平和理論の生成と展開——平和研究の新次元」『大学院研究年報』第23号 (中央大学) 1994年2月 ② 「平和研究の理論的地平——21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号 (日本平和学会) 1996年6月 ③ 「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題——D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号 (立教大学) 1998年2月 ④ 「『地球社会』と民主主義原理——『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号 (立教大学) 2000年4月 ⑤ 「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号 2000年8月 ⑥ 『平和研究 第26号——新世紀の平和研究』(早稲田大学出版部) (編著) 2001年11月 ⑦ 「Atom-Politics in East Asia : Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号 (新潟国際情報大学) 2002年3月 ⑧ 「世界政治と市民——現代コスモポリタニズムの位相」高島通敏編『現代市民政治論』(世織書房) 2003年2月 ⑨ 「『安全保障』概念の位相と『沖縄問題』」『PRIME』第17号 (明治学院大学国際平和研究所) 2003年3月 ⑩ A.ギャンプル「新しい世界秩序の形成——政治的能力と政策的挑戦」(翻訳)『世界化と平和の問題状況』(中央大学社会科学研究所) 1999年3月 ⑪ J.ガルトゥング「新世界知的秩序——世界をめぐる知のスタイル」(翻訳)遠藤誠治・小林誠編『グローバル・ポリティクス』(有信堂) 2000年9月 ⑫ M.ウォルツァー『グローバルな市民社会へ向かって』(日本経済評論社) (共訳) 2001年10月 ⑬ D.ヘルド『デモクラシーと世界秩序』(NTT出版) (共訳) 2002年12月 ⑭ 「冷戦後の世界政治を読む」『AERAMook 新国際関係がわかる。』(朝日新聞社) 1999年5月 ⑮ 「地球化時代の〈アイデンティティ〉」『AERAMook 人間科学がわかる。』(朝日新聞社) 2001年10月 など。
所属学会	日本国際政治学会 日本平和学会 (理事) 日本政治学会



氏名 シン ウンジュ 申 銀珠 SHIN Eunju
 性別 女
 生年月日 1958年3月4日生
 職名 助教授(2001年4月)
 連絡方法 E-mail : sin@nuis.ac.jp
 学歴 韓国外語大学及び大学院(修士過程)修了後、
 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了
 学位 博士(人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月)
 職歴 日本学術振興会外国人特別研究員、
 名古屋大学言語文化部非常勤講師(1998.4~2001.3)
 研究分野 韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相につ
 いて。特に、日本統治期の朝鮮を描いた韓国と日本の文学作品及び<在日文学>
 について研究を進めている。
 主要業績 論文
 ①「韓国近代文学の中の日本文学—『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として—」
 (単著)『人間文化研究年報』第16号(お茶の水女子大学、1993.2)
 ②「朱耀翰と川路柳虹」(単著)『淵叢』第2号(淵叢の会、1993.3)
 ③「<朝鮮>から見た中野重治—植民地知識人の自画像を求めて—」(単著)
 『国際日本文学研究集會會議録』第17回(国文学研究資料館、1994.10)
 ④「韓国における高橋新吉」(単著)
 『国文』第82号(お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1)
 ⑤「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」(単著)
 『日語日文学研究』第28輯(韓国日語日文学会、1996.6)
 ⑥「中野重治と韓国プロレタリア文学運動—林和、李北満との関係を中心として—」
 (単著)『日本研究』第12号(韓国外語大学校日本研究所、1998.2)
 ⑦「日本統治期の韓国人作家と日本語」(単著)
 『日本近代文学』第63集(日本近代文学会、2000.10)
 ⑧「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』—民族・民族問題をめぐって—」
 (単著)『淵叢』第10号(淵叢の会、2001.8)
 ⑨「中野重治、詩的精神の憤怒の行方—君らの叛逆する心は別れの一瞬に凍
 る—をめぐって」(単著)『国文學』第47巻1号(學燈社、2002.1)
 ⑩「ソウルの異邦人、その周辺—李良枝『由熙』をめぐって—」(単著)『新潟
 国際情報大学情報文化学部紀要』第7号(2004.3)
 所属学会 日本近代文学会
 朝鮮学会
 お茶の水女子大学国語国文学会
 韓国日本近代文学会



<p>氏名</p> <p>性別</p> <p>生年月日</p> <p>職名</p> <p>連絡方法</p> <p>学歴</p> <p>学位</p> <p>職歴</p> <p>研究分野</p> <p>主要業績</p> <p>所属学会</p> <p>その他</p>	<p>ナガサカ イタル</p> <p>長坂 格 NAGASAKA Itaru</p> <p>男</p> <p>1969年3月29日生</p> <p>助教授 (2005年4月)</p> <p>E-mail : nagasaka@nuis.ac.jp</p> <p>1991年 国際基督教大学 教養学部卒業</p> <p>1994年 筑波大学大学院 地域研究研究科修了</p> <p>1998年 神戸大学大学院 文化学研究科単位取得退学</p> <p>修士(地域研究、筑波大学、1994年3月)</p> <p>1998年～2001年 神戸大学大学院文化学研究科助手</p> <p>1999年～2002年 流通科学大学非常勤講師</p> <p>2002年～2005年 新潟国際情報大学講師</p> <p>社会人類学、移民研究、比較社会学、東南アジア研究、フィリピン研究</p> <p>著書</p> <p>① Population Movement in Southeast Asia: Changing Identities and Strategies for Survival (共著) (Japan Center for Area Studies, 2000年)</p> <p>② 『世界の住民組織: アジアと欧米の国際比較』 (共著) (自治体研究社、2000年)</p> <p>③ Post Colonialism and Local Politics in Southeast Asia (共著) (New day Publishers, 2003年)</p> <p>④ 『海外における日本人、日本のなかの外国人』 (共著) (昭和堂、2003年)</p> <p>⑤ 『東アジアの家族・地域・エスニシティ: 基層と動態』 (共著) (東信堂、2005年)</p> <p>論文</p> <p>① 「フィリピンにおけるバランガイの形成: フィリピン地域社会研究の一視点」 (『社会学雑誌』 第16号、1998年)</p> <p>② "Kinship Networks and Child Fostering in Labor Migration from Ilocos, Phirippines to Italy" (Asian and Pacific Migration Journal Vol.7, No.1, 1998年)</p> <p>③ 「故郷で養育される移住者の子供達: フィリピンからイタリアへ移住における家族ネットワーク」 (『民族学研究』 66巻1号、2001年)</p> <p>④ "Cellular Phones and Filipino Transnational Social Fields" (Pilipinas: A Journal of Philippine Studies, Vol.40, 2003年)</p> <p>日本文化人類学会、日本社会学会、日本オセアニア学会、日本移民学会、日本国際文化学会、米国人類学会 (AAA)</p> <p>主な調査</p> <p>1996年～1998年 フィリピン、イロコス地方村落調査 (約2年) (松下国際財団による助成)</p> <p>1999年～2000年 フィリピン、イロコス地方村落調査 (約2ヶ月) (文部省科学研究費補助金・国際学術研究による助成)</p> <p>2001年 イタリア、スイスにおけるフィリピン人社会調査 (約1ヶ月) (文部科学省科学研究費補助金・奨励研究Aによる助成)</p> <p>2001年 フィリピン、マニラ市町工場調査 (約2週間) (文部科学省科学研究費補助金・基盤研究C (1) による助成)</p> <p>2002年～2004年 フィリピン、マニラ首都圏都市住民調査 (約3ヶ月、文部科学省科学研究費補助金・基盤研究Aによる助成)</p> <p>2003年～2004年 フランスにおけるアジア系外国人調査 (約2週間、文部科学省科学研究費補助金・基盤研究Aによる助成)</p>
--	---



氏名 矢口 裕子 YAGUCHI Yuko
ヤグチ ユウコ
 性別 女
 生年月日 1961年2月22日生
 職名 助教授 (2001年4月)
 連絡方法 E-mail : yaguti@nuis.ac.jp
 学歴 1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業
 1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了
 1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学
 学位 文学修士 (法政大学、1991年3月)
 職歴 東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4~2001.3)
 受賞歴 1996年7月14日第回女性学研究国際奨励賞
 研究分野 アメリカ文学におけるジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)
 主要業績 論文
 ① “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (I)” 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁) (1992.3)
 ② “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (II)” 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁) (1993.3)
 ③ 「Sam Shepard, Fool for Love-カウボーイが女を愛する時」 法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁) (1994.2)
 ④ 「Sam Shepard, A Lie of the Mind-新しいイヴの歌」 日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁) (1996.3)
 ⑤ “The Text That Is the Writer-Anais Nin's Diary” Anais-An International Journal. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60) (1998.3)
 ⑥ “The Imaginary Father” Anais-An International Journal. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60) (2000.3)
 ⑦ 『『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス』 全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁) (2000.6)
 ⑧ 「性/愛の家のスパイ-Henry&Juneから読み直す Anais Nin」 日本英文学会『英文学研究』第80号 (13-25頁) (2003.10)
 ⑨ “Twittering Machine of Paradise-Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Daughters” A Cafe in Space:Anais Nin Literary Journal Vol.1.Sky Blue Press (pp.106-17) (2003.11)
 ⑩ 「アナイス・ニンの娘たち-冥王まさ子と矢川澄子のグリンプス」 『新潟ジェンダー研究』第5号 (pp.5-12) (2004.2)
 所属学会 日本アメリカ文学会
 日本英文学会
 日本女性学会
 日本平和学会
 日本ヘンリー・ミラー協会



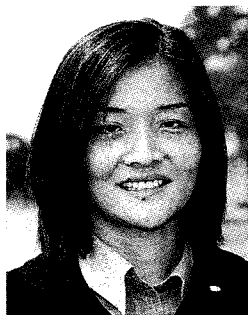
氏名 Brian Gregory Dunne
 性別 男
 生年月日 1963年4月8日
 職名 CEPインストラクター (2003年4月)
 連絡方法 E-mail : dunne@nuis.ac.jp
 学歴 1985年12月 タスマニア大学 教育学部卒業
 1999年 3月 マクワリー大学大学院 応用言語学科修士課程卒業
 学位 教育学学士号 (1985年12月)
 応用言語学 (TESOL) 修士号 (1999年3月)
 職歴 シドニー・スチューデント・サービス非常勤英語講師 (1997年11月～1998年7月)
 関西外国語短期大学非常勤英語講師 (1999年4月～2000年3月)
 金沢工業大学常勤英語講師 (2000年3月～2003年3月)

研究分野
 1. 課題 視聴覚教材
 キーワード 教材開発
 研究形態 個人研究
 2. 課題 意味論・語用論
 キーワード Pragmalinguistic breakdown, Language transfer
 研究形態 個人研究
 3. Language Testing

研究分野の概要
 英語という言語を教える教師と、日本語を学ぶ学習者という二つの立場から言語学習を眺めるように努めています。この全く異なった立場に立つことより、実際に学習者が英語を必要とする状況設定 (言語活動の状況設定) や言語学習者が陥りやすい共通の問題などを予測し、学習者にとってより効果的で興味のもてる教授法を確立できるように模索しています。

主要実績
論文
 ① English/Japanese Codeswitching: A Case Study of a Japanese-Australian family 1999.
 ② Understanding Student Guessing Strategies within 5-Option Multiple-choice Tests, 2004.

所属学会
 全国語学教育学会 (The Japan Association for Language Teaching)
 AsiaTEFL (The Asian Association of Teachers of English as a Foreign Language)



氏名	ハム リー イェン Han Lee Yen
性別	女
生年月日	1972年4月21日生
職名	CEPインストラクター (2004年4月)
連絡方法	E-mail : han@nuis.ac.jp
学歴	1994年 National University of Singapore Bachelor of Arts 1997年 Nanyang Technological University (National Institute of Education) Postgraduate Diploma in Education 2003年 Nanyang Technological University (National Institute of Education) Master of Arts (Applied Linguistics)
職歴	1994-1995年 Speech and Drama Teacher 1995-1996年 English Language Teacher 1997-2001年 English Language & Literature Teacher 2002-2004年 Research Assistant, National Institute of Education
研究分野	Language Anxiety and Self-efficacy in Language Learning
所属学会	English Language and Literature Teachers Association (Singapore)

情報 システム学科

赤木 敏子
大竹 康夫
苅部 恒徳
岸野 清孝
近藤 進
高木 義和
竹並 輝之
槻木 公一
永井 武
樋口 光明
藤瀬 武彦
山口 直人
渡辺 忠
青淵 正幸
石井 忠夫
桑原 悟
小宮山 智志
平田 透
大山 毅
小野 陽子
河原 和好
佐々木 桐子
山田 尚史







氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

アカキ トシコ
赤木 敏子 AKAKI Toshiko

女

1939年1月21日生

教授 (1994年4月)・学生部長

E-mail : akagi@nuis.ac.jp

日本女子大学家政学部家政理学科卒業

家政学士 (日本女子大学、1961年3月)

1962年4月 日本専売公社中央研究所 入社

(1985年5月 日本たばこ産業株式会社に名称変更)

1988年4月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所

1988年1月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 主任研究員

1994年3月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 退職

1971年4月～1997年3月 日本科学技術連盟官能検査研究会指導委員を兼職

1977年4月～1997年3月 実践女子学園大学非常勤講師を兼職

研究分野

日常生活における各種問題点の分析。

情報教育の現状と今後の課題。

主要業績

論文

①「新潟における情報システム化状況調査」本大学共同研究 (1995)

②「暮らしの中の折込み広告」全国折込広告新潟大会 (1998)

③「暮らしの中から(2)中学生の思いやり行動 統計」日本統計協会 (2000.6)

④「暮らしの中から(3)若者と携帯電話とのこれからの関係 統計」日本統計協会 (2000.7)

所属学会

日本官能評価学会(理事)

日本行動計量学会

応用統計学会

情報処理学会

その他

新潟県卸売り市場審議会委員



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

オオタケ ヤスオ
大竹 康夫 OHTAKE Yasuo

男

1940年1月23日生

教授（2002年4月）・就職指導委員長

E-mail : ohtake@nuis.ac.jp

1964年 東京大学理学部物理学科卒業

2000年 東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程後期課程満期退学

理学士（東京大学、1964年3月）

1964年～1989年 NEC中央研究所およびC&Cパブリックシステム本部勤務（コンピュータシステムの性能評価に関する研究、社会一技術システムのシステム開発、教育システム事業の推進、社内遠隔教育システムNESPACの開発に携わり、教育システム部長、本部長代理を歴任）

1974年～1976年（財）未来工学研究所（科技厅所管）出向（主任研究員、テクノロジーアセスメントの調査研究に携わる。）

1989～2002年 NECユニバーシティ勤務（取締役・兼マルチメディア教育センター長、および首席技師長を歴任）

1994年～2001年 文教大学人間科学部非常勤講師

研究分野

① ITを活用する人間活動システムのシステム計画に関する研究
地域の産業界と連携しつつ新しいサービス/ビジネスのシステム計画の方法を探究する。

② e-ラーニングシステムに関する研究
オンライン学習コースを開発し、地域生涯学習ネットワークへの発展形を研究する。

③技術経営(MOT;Management Of Technology)戦略と人材育成政策の研究

主要業績

著書

①「企業内教育における遠隔教育」、教育システム情報学会編、『教育情報ハンドブック』、5編13.3節（分担）、実教出版刊、2001.10

②『実践・サテライト教育』、NEC文化センター刊、1990.6（共著）

論文

①「Delivery of Corporate Virtual University for Workplace Continuing Learning」、Proc.ICDEDL'99、Beijing、1999.4（共著）

②「Distance Education by Satellite Communication Technology」、Proc.ASEE/ICEEP'96、Washington, D.C.、1996.6（単著）

③「NESPACによる上流工程SE教育の展開」、情報処理学会研究報告、93-CE-30、1993.11（共著）

④「システムズアプローチによる顧客問題解決への取り組みーシステムエンジニア教育へのSSM導入の試み」、経営情報学会1993年春季全国研究発表大会、1993.5（共著）

⑤「企業内衛星利用の動向」、テレビジョン学会誌Vol.46、N0.1、pp.13-22、1992.（単著）

⑥「A Networking Educational System with NESPAC」、『Computers in Education』、A.McDougall and C.Dowling (Ed.)、pp.997-1002、ESV、1990（共著）

所属学会

電子情報通信学会、情報処理学会、日本教育工学会、日本工学教育協会、研究・技術計画学会

その他

文部省放送教育開発センター研究協力者（1992-95）
日本工学教育協会国際委員会委員（1998-2001）



氏名 名 別 性 別 生年月日 職名 連絡方法 学歴 学位 職歴

カリベ ツネノリ
 苅部 恒徳 KARIBE Tsunenori
 男
 1937年 3月 7日生
 特任教授 (2002年4月)
 E-mail : karibe@nuis.ac.jp
 1959年 新潟大学人文学部英文科卒業
 1965年 東京都立大学人文科学研究科博士課程英文学専攻満期退学
 文学修士 (東京都立大学、1962年3月)
 1965年 成蹊大学文学部専任講師
 1967年 新潟大学教養部専任講師
 1968年 新潟大学教養部助教授
 1983年 新潟大学教養部教授
 1994年 新潟大学人文学部教授

研究分野 英語教育、英語辞書学、英語語源学、英語史、中世英語英文学、社会言語学など、英語と歴史・社会・文化・教育との関係分野

主要業績 **著書 (共著)**

- ① 中島文雄編『岩波英和大辞典』(岩波書店1970年)
- ② 小稻義男編『研究社新英和大辞典第5版』(研究社1980年)
- ③ 中島文雄ほか編『岩波新英和辞典』(岩波書店1981年)
- ④ 宮部菊男ほか編『ロイヤル英和辞典』(編集)(旺文社1990年)
- ⑤ 寺澤芳雄編『英語語源辞典』(編集)(研究社1997年)
- ⑥ 『原文対訳「カンタベリー物語・総序歌」』(松柏社2000年)
- ⑦ 『徹底解明 欽定英訳聖書 初版「マタイ福音書」— 解説・原文・註解・文法—』(研究社2002年)
- ⑧ 鈴木佳秀編『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』(高志書院2003年)

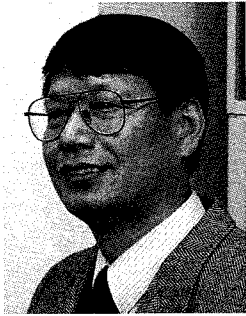
論文 (単著)

- ① "Old English Palatalization" Metropolitan、No.9 (1964.10)、1-11.
- ② "On the Relationship between Relatives and Antecedents in the Parker MS of the Anglo-Saxon Chronicle from Genealogical Preface to 924" 成蹊大学文学部紀要、第1号(1965.12)、1~11.
- ③ 「対訳「ペーオウルフ」(一)、(二)、(三)、(四)」新潟大学教養部研究紀要、第20集(1989.12)、第21集(1990.12)、第22集(1991.12)、第25集(1993.12)。
- ④ 「親称の "Thou"と敬称の "You" — 英語における2人称代名詞の歴史」新潟大学英文学会誌、第28号(1999.8)、1-16.
- ⑤ 「Chaucer の描く中世人の群像」新潟大学言語文化研究、5号(1999.12)、33-48頁。
- ⑥ 「英語差別用語の基礎的研究(1) : 性差別語」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第4号(2001.3)、1-17頁。

所属学会 日本英文学会
 日本中世英語英文学会
 日本大学英語教育学会
 新潟大学英文学会



氏名	岸野 清孝 KISHINO Kiyotaka
性別	男
生年月日	1949年4月20日
職名	教授 (2004年4月)
連絡方法	E-mail : Kishino@nuis.ac.jp
学歴	1972年 京都工芸繊維大学工芸学部生産機械工学科卒業 1974年 京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科生産機械工学専攻修士課程終了
学位	工学博士 (京都大学、2004年3月)
職歴	1974年 株式会社日立製作所システム技術本部入社 1998年 株式会社日立製作所システム事業部ロジスティクスシステム部長 2002年 株式会社日立製作所システム事業部産業・流通システム本部長
研究分野	製造・流通分野においてビジネスプロセスを分析し、ITの活用により業務改革を行うシステムの計画に関する研究 ①製造・流通におけるSCM (Supply Chain Management) の研究 ②製造・流通におけるロジスティクスのIT化の研究 ③トラック輸送の高度交通システム・ITS (Intelligent Transportation System) の活用によるIT化の研究
主要業績	<p>著書</p> <p>①「CIM生販統合の実現」日本経済新聞社 (共著) 1990年 ②「人工生命」同文書院 (共著) 2002年</p> <p>論文</p> <p>①「On Stochastic Controllability for Nonlinear System」IEEE AUTOMATIC CONTROL, 1974 ②「FA and Physical Distribution at a Copy Machine Part Processing Works」International Physical Distribution Conference Tokyo, 1985 ③「Integrated and Distributed Production Control System for Daily Parts Manufacturing」Hitachi Reveiew, 1986 ④「FMSの動向と適用技術」無人化技術 1987年 ⑤「VANの利用による資材業務の合理化・ペーパーレス化」日立評論 1989年 ⑥「生産・販売統合CIMシステム」日立評論 1993年 ⑦「生販統合化における情報処理の技術・製品・活用法」ファクトリ・オートメーション 1994年 ⑧「需要変動に対応した生産計画」電気学会産業応用部門全国大会 1995年 ⑨「21世紀ビジネス革新を支えるCALCSの展開」日立評論 1997年 ⑩「Development of Artificial Life Based Optimization System」Eighth International conference on parallel and Distribution Systems Korea IEEE COMPUTER SOCIETY, 2001 ⑪「ブローカーを利用した交通情報予測方式の検討」情報処理学会論文誌 2002年 ⑫「Arrival Time Prediction Based on Floating Car Data in the Fleet Management ASP」9th ITS World Congress, Chicago, 2002 ⑬「トラック運行管理ASPによる業務向け交通情報サービスの開発」計測自動制御学会産業論文集 2003年 ⑭「加速度の分布を用いた交通安全診断の考察」第2回ITSシンポジウム 2003年</p>
所属学会 その他	情報システム制御学会、計測自動制御学会、交通工学研究会、技術士 (経営工学部門、総合技術監理部門)



氏名 近藤 進
 性別 男
 生年月日 1949年3月5日生
 職名 教授 (2001年9月)
 連絡方法 E-mail : kondo@nuis.ac.jp
 学歴 1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業
 学位 博士 (工学、京都大学、1994年5月)
 職歴 1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所
 研究分野 光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザ、光変調器、光スイッチ、受光素子) および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長)
 主要業績

コンドウ ススム
 近藤 進 KONDO Susumu

1949年3月5日生
 教授 (2001年9月)
 E-mail : kondo@nuis.ac.jp
 1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業
 博士 (工学、京都大学、1994年5月)
 1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所
 光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザ、光変調器、光スイッチ、受光素子)
 および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長)

論文

- ① "Liquid phase-epitaxial growth of single-crystal LiNbO3 thin film", Appl.Phys.Lett.26, p489 (1975)
- ② "LPE growth of Li (Nb,Ta) O3 solid-solution thin film waveguide on LiTaO3 substrate", J.Crystal Growth 46, p314 (1979)
- ③ "Prevention of circumferential melt back in LPE growth of InP/InGaAsP/InGaAs/InP layers for APD", J.Crystal Growth 61, p8 (1983)
- ④ "660nm InGaP light emitting diodes on Si substrate", Appl.Phys.Lett.53, p273 (1989)
- ⑤ "MOVPE growth of strained InGaAs/InAlAs MQWs for a polarization insensitive electro-absorption modulator", J.Electron.Materials 25, p385 (1996)
- ⑥ "Ruthenium doped Semi-insulating InP Buried InGaAlAs/InAlAs Multi-Quantum-Well Modulators", Jpn.J.Appl.Phys.41, p1171 (2002)

特許

"Semiconductor optical device and the fabrication method"United State Patent, No.US 6,717,817,B2 Apr.6 (2004)

所属学会

電子情報通信学会
 応用物理学会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
学歴

タカギ ヨシカズ
高木 義和 TAKAGI Yoshikazu
男
1949年10月20日生
教授 (1996年4月)・情報システム学科長
E-mail : takagi@nuis.ac.jp
1973年 京都大学農学部食品工学科卒業
農学博士 (京都大学、1983年3月)
1973年～1996年 日本たばこ産業株式会社 (入社時は日本専売公社)

研究分野

葉たばこ香嗅味成分の微量化学分析・構造決定・合成に関する研究、研究管理、新規事業のための調査研究、特許の情報管理および出願、喫煙と健康に関する科学情報の管理業務に従事。

主要業績

情報をめぐるさまざまな考え方の中で、情報を人・物・金につづく第4の資源ととらえ、実体としての組織や社会における、有効な情報発信、情報受信、情報管理、情報解析等、情報の価値に関する研究を行っている。

論文

- ①「概説情報論～情報とは何か～第12回～第1回」単著、2003.10～2002.12 知のWebマガジンen、(10) 2003～(12) 2002、
(<http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0310/main3.cfm>～
<http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0211/main3.cfm>)
- ②「商用データベースおよび検索エンジンを使用した情報リテラシー教育としての情報検索」単著、2002.3
新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.5、2002
- ③「時系列データによる疾患と食品摂取量の関連の解析」単著、1999.3.19
新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、205、1999
- ④「情報資源としてのインターネット」単著、1997.10.14
第34回情報科学技術研究集会発表論文集、163、1998
- ⑤「インターネットによる情報検索」共著、1996.10.22
第33回情報科学技術研究集会発表論文集、53、1997
- ⑥「インターネットにおける情報検索」(情報管理 Vol.38、No.10 Jan. 1996)
- ⑦「水府葉たばこの香気成分に関する研究」(京都大学農学部博士論文 1982)
その他の文献 (<http://www.nuis.ac.jp/~takagi/>を参照)

所属学会

三田図書館情報学会
情報処理学会
日本栄養・食糧学会
日本分類学会

その他

(財) バテルメモリアル研究所 客員研究員 (1987)
情報処理学会情報システムと社会環境研究会運営委員 (2001.4～)



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

タケナミ テルユキ
竹並 輝之 TAKENAMI Teruyuki

男

1941年1月29日生

教授 (1994年4月)・情報センター長

E-mail : takenami@nuis.ac.jp

1963年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業

1965年 慶應義塾大学大学院工学研究科管理工学専攻修士課程修了

工学修士 (慶應義塾大学、1965年3月)

1965年 (株)東芝入社。情報システムの開発、プロジェクト管理、セールスサポート等に従事、流通・金融システム事業部システム部長、情報処理・制御システム本部システム担当技師長を歴任し、1994年退職。

研究分野

ビジネス情報システムを開発するための、システム分析、設計、開発方法及びシステム開発プロジェクトの管理方法、情報システムの評価方法の研究を通して、良い情報システムとはどのようなものか、使いやすく、役に立つ情報システムはどのように設計すれば良いかを追究する。また、来たるべきネットワーク社会に対応した企業組織の変化、その中における管理者の役割と行動の変化について研究する。

主要業績

著書

- ①『多変量解析の基礎』(共訳)サイエンス社 (1972)
- ②『情報システムハンドブック』(共編)培風館 (1989)
- ③『応用システム開発の重点解説』(共著)アイテック (1995)

論文

- ①「ソフトウェアの標準化」(共著) NTIS (1979)
- ②「産業界が期待する情報システム技術者教育について」私学公論 (1991)
- ③「UNIXベースのクライアント/サーバ大規模ビジネスシステムの構築」情報処理学会 (共著) (1993)
- ④「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」(共著) 情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム (2001)

所属学会

情報処理学会
三田図書館情報学会



氏名 ツキギ コウイチ 槻木 公一 TSUKIGI Kouichi
 性別 男
 生年月日 1946年10月9日生
 職名 教授 (1996年4月)
 連絡方法 E-mail : tsukigi@nuis.ac.jp
 学歴 1971年 東京大学工系大学院航空学修士課程修了
 学位 航空学修士 (東京大学、1971年3月)
 職歴 1993年～1996年 (財)鉄道総合技術研究所SI 事業推進部長
 研究分野 情報システム分析設計方法論。座席予約システムやTPモニタなどの応用研究と実システムの開発経験を踏まえ、個人・企業・社会などの組織体と情報処理技術が適切に役割分担あるいは相互補完して、融和一体化した情報システムを構築するための方法論を追及する。特に、時空間軸で動的に変化せざるを得ない組織体の活動プロセスを十分に視野にいれたデザインの枠組みや情報システムのモデル作りを進めている。

主要業績

著書

- ①『オンラインシステムのソフトウェア』産業図書 (共著) 1977年
- ②『新版データ通信』電子通信学会 (共著) 1979年
- ③『ソフトウェア指向アーキテクチャ』オーム社 (共著) 1985年
- ④『情報システムの分析と設計』培風館 (共訳) 1995年

論文

- ①「Distributed processing networks in the seat reservation system of JNR」proceedings of the Canadian Conference on Industrial Computer systems (共著) 1984年
- ②「オンラインシステムのスループットの動作論的解析」情報処理学会論文誌 (共著) 1985年
 「顧客販売総合システムにおける発売実績データベースの構築」鉄道総合技術研究所報告 1985年
- ③「旅行者中心の旅行支援システムに関する一考察」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号 2005年

フィールドワーク等

特許 (1905460) 指定券発行装置 (共案) 1987年
 特許 (1444294) 高速出札システム (共案) 1988年
 特許 (1542849) 端末ファイルの保守方式 (共案) 1990年

所属学会 情報処理学会
 人工知能学会

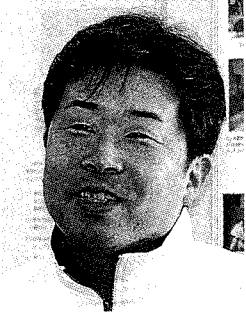
その他 学会活動：情報処理学会理事 (1995.5～1997.5)
 技術士 (情報処理部門20500)



氏名 永井 武 NAGAI Takeshi
 性別 男
 生年月日 1937年12月13日生
 職名 教授 (1995年4月)
 連絡方法 E-mail : nagai@nuis.ac.jp
 学歴 早稲田大学第一理工学部金属工学科卒業
 学位 工学博士 (早稲田大学、1976年2月)
 職歴 1981年～1987年 (株)富士通研究所材料技術部長
 1988年～1990年 (株)富士通研究所管理部長
 1991年～1995年 (株)富士通研究所情報システムセンター長
 研究分野 オープンな情報システムの構築
 オープンな情報システムの運用
 主要業績 著書
 ①『世界を結ぶ情報ハイウェイ—インターネット入門』富士通経営研修所 (1994)
 論文
 ①菊池浩明、黒田康嗣、永井武：情報処理学会誌、36巻 (1995)、第8号「プライバシー強化メールPEMにおける証明書配布の実装と評価」 p.2063.
 ②共著、コラボレーション研究会編「情報孤島日本の危機」工業調査会 (1996)
 ③永井武、関英基、槻木公一：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第2号 (1999)「新潟国際情報大学の就職情報システム」 p.237.
 ④永井武：市政、vol.48 (1999)、第3号「ネットワーク社会に向け地方行政ができること」 p.21
 ⑤永井武、関英基：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号 (2000)「ネットワーク社会に必要な日本および世界の情報通信基盤の状況」 p.219.
 所属学会 情報処理学会



氏名	樋口 光明 HIGUCHI Mitsuaki
性別	男
生年月日	1937年9月3日生
職名	教授 (2003年4月)
連絡方法	E-mail : hig@nuis.ac.jp
学歴	1961年 九州大学理学部数学科卒業
学位	理学士 (九州大学、1961年3月)
職歴	1961年4月～1986年3月 旭化成工業株式会社 1987年 旭化成情報システム株式会社出向 1991年 延岡コンピュータ・アカデミー出向 1996年4月～ 新潟国際情報大学専任講師
研究分野	情報処理システムの設計全般。上流工程（フィージビリティスタディ）から下流（プログラミング）まで。特に最近は人工知能、その中でもエキスパートシステムの設計・開発。ここ数年は遺伝的アルゴリズムを用いたスケジューリング問題の解法。
主要業績	<p>著書</p> <p>①『農業分野におけるエキスパートシステム適用可能性』旭リサーチセンター 1988年</p> <p>論文</p> <p>①「多品種少量生産向上の製造スケジューリングに対するGAの適用」 情報処理学会 1995年</p> <p>②「遺伝的アルゴリズムのフライトスケジューリング問題への適用」 電子情報通信学会 1996年</p> <p>③「変則遺伝的アルゴリズムによる新潟県の衆議院議員選挙（小選挙区）の選挙区分割についての試案」 1998年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第1号 217～231頁</p> <p>④「An Application of the Genetic Algorithm to Scheduling Problems Using the Concept of Differential Penalty.」 1996年9月 Second Joint Conference on Knowledge-Based Software Engineering. 202～205頁</p> <p>⑤「『組合わせ問題』に適用する遺伝的アルゴリズム ～交叉不使用の意味するもの～」 単著 2000年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号241～253頁</p> <p>⑥「Applying of Character Preserving Mutation to Scheduling Problem」 2000年9月 Knowledge Based Software Engineering 59～64頁</p> <p>⑦「形質遺伝を重視した突然変異の提案とその有効性」 2001年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第4号123～135頁</p> <p>⑧「A proposal for a swap-type mutation of the genetic algorithm and its application to Job Shop Scheduling problems」 2002年9月 IOS press/Knowledge-Based software Engineering 307～312頁</p> <p>⑨「二つの「交換型突然変異」の発想の必然性」 2003年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第6号 177～184頁</p>
所属学会	情報処理学会 人工知能学会



氏名 藤瀬 武彦
性別 男
生年月日 1962年4月22日生
職名 教授 (2002年4月)
連絡方法 E-mail : fujise@nuis.ac.jp
学歴 1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業
1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了
1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了
学位 体育学修士 (東海大学、1987年3月)
博士 (医学) (東海大学、1992年9月)
職歴 1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師
1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師
1998年4月～ 新潟国際情報大学助教授
2002年4月～ 新潟国際情報大学教授
研究分野 体育学 (運動生理学、肥満学)
主要業績

フジセ タケヒコ
藤瀬 武彦 FUJISE Takehiko

男
1962年4月22日生
教授 (2002年4月)
E-mail : fujise@nuis.ac.jp
1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業
1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了
1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了
体育学修士 (東海大学、1987年3月)
博士 (医学) (東海大学、1992年9月)
1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師
1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師
1998年4月～ 新潟国際情報大学助教授
2002年4月～ 新潟国際情報大学教授

体育学 (運動生理学、肥満学)

論文

- ① 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾・岩垣丞恒・山村雅一「歩行トレーニング時の高濃度酸素ガス吸入が皮下脂肪厚及び体周囲に及ぼす効果」新潟体育学研究、Vol.21、35～45、2003年
- ② 藤瀬武彦「日本人及び欧米人女子学生におけるボディイメージの比較」体力科学、第52巻第4号、421～432、2003年
- ③ 藤瀬武彦・重原麻里・長崎浩爾・高橋 努・岩垣丞恒・山村雅一「無酸素的運動時の高濃度酸素ガス吸入が作業成績に及ぼす効果」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第5号、265～282、2002年
- ④ 藤瀬武彦「日本人青年女性における体型の自己評価と理想像 — アジア人及び欧米人青年女性との比較 —」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第4号、105～122、2001年
- ⑤ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年喫煙者の漸増負荷運動における作業成績及び生理的変量に及ぼす一時的喫煙中止の効果」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号、187～202、2000年
- ⑥ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体力的特徴」体力科学、第48巻第5号、631～640、1999年
- ⑦ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・山村雅一「持久的運動鍛練者の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果」トレーニング科学、第10巻第2号、87～96、1998年
- ⑧ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・松本正彦・山村雅一「漸増負荷運動時の高濃度酸素吸入が持久的運動鍛練者の作業成績及び生理的変量に及ぼす効果」トレーニング科学、第9巻第2号、31～38、1997年
- ⑨ 藤瀬武彦・他「一般青年男女における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力測定の試み」体育学研究、第39巻第6号、403～416、1995年
- ⑩ Fujise,T., Terao,T., and Nakano,S. 「Effects of endurance training under hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats.」Tokai J. Exp. Clin. Med., Vol.17, No.2, 67～73, 1992
- ⑪ 藤瀬武彦・内山秀一・寺尾 保・中野昭一「ラットの糖・脂質代謝に及ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響」体力科学、第40巻第2号、208～218、1991年

所属学会
その他

日本体育学会・日本運動生理学会・日本体力医学会・日本肥満学会・日本生理学会
新潟県パワーリフティング協会理事 (1998年度～)・新潟県健康運動実践指導者
認定試験委員 (2003年～)



ヤマグチ ナオト
 氏名 山口 直人 YAMAGUCHI Naoto
 性別 男
 生年月日 1957年3月31日生
 職名 教授 (2005年4月)
 連絡方法 E-mail : yamaguti@nuis.ac.jp
 学歴 1979年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業
 1996年 東京工業大学大学院社会工学専攻博士課程修了
 学位 工学士 慶應義塾大学 1979年3月
 職歴 1979年4月～1999年3月 宇都宮市役所勤務
 1991年～1993年 東京工業大学工学部非常勤講師
 1996年～ 日本女子大学人間社会学部非常勤講師
 2003年4月～2004年3月 ニューイングランド大学客員教授

研究分野 専門は、計画学、コンピュータによるデータ解析および都市システム理論ですが、データ解析の純粋な理論を研究するのではなく、現実のデータを用いての実証研究です。長年、行政実務を行って来ましたが、都市計画という立場で、都市や地域をデータによって解析するという仕事を中心でした。政策を立案して検討・協議することを科学的に行うために、都市システムモデルというものを学び、都市シミュレータを作成して来ましたが、当時はコンピュータ単体上で単独で動かすものだったために、行政の現場に定着することは難しい状況でした。その後、その都市シミュレータを中心として、データベースやプレゼンテーションツールを統合し、さらにネットワークシステムとして、多くの人(担当者)が使えるようにするための研究をして来ました。これからは、行政庁内のシステムから地域社会へも範囲を広げて、地域の人たちと接しながら、行政計画を立案し策定するシステムを研究したいと考えています。

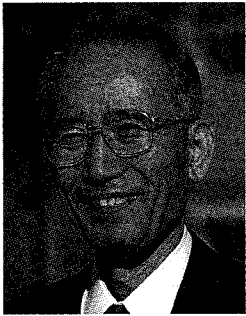
主要業績

論文

- ①熊田、兼田、五十嵐、山口 (1990) 「Gaming/Simulation to Create Planning Culture」 ISAGA/NASAGA
- ②山口 (1991) 「地方自治体における計画策定支援システムの整備方策」 日本都市情報学会
- ③山口 (1991) 「地方都市における住民の居住環境評価の構造と空間分布」 日本地域学会
- ④山口、五十嵐 (1993) 「計画策定支援型都市情報システムの核としての都市システムモデルの開発に関する研究」 日本都市情報学会
- ⑤山口 (2000) 「日本の地方自治体におけるGISの現状と整備要件」 新潟国際情報大学 紀要第3号
- ⑥山口 (2000) 「町丁目データによる人口移動分析」 統計第51巻第2号
- ⑦山口 (2001) 「地方自治体ホームページと統計情報提供の現状」 統計第52巻第8号
- ⑧山口 (2004) 「GIS活用における小地域データ整備の現状と展望」 統計第55巻第8号

所属学会 日本統計学会
 日本地域学会
 人文地理学会
 日本都市計画学会
 日本社会情報学会
 地理情報システム学会

その他 2001年～ 宇都宮地域情報化専門会議委員長
 2001年～2002年 新潟県IT&ITS推進協議会
 地域情報化文化委員会電子自治体検討部会長



氏名 渡辺 忠 WATANABE Tadashi
 性別 男
 生年月日 1939年2月11日生
 職名 教授 (1994年4月)
 連絡方法 E-mail : watanabe@nuis.ac.jp
 学歴 1961年 北海道大学理学部数学科卒業
 1966年 防衛大学校理工学研究科電子工学専攻課程修了
 1970年 上智大学大学院経済学研究科修士課程修了
 学位 経済学修士 (上智大学、1970年3月)
 職歴 1984年 防衛庁陸上幕僚監部分析室長 (2年4ヶ月)
 1988年 防衛庁統合幕僚監部分析室長 (3年)
 受賞歴 日本オペレーションズ・リサーチ学会フェロー 1994年4月
 研究分野 オペレーションズ・リサーチ (OR)
 地域のOR、行政のOR、軍事のOR
 主要業績 著書
 ①『初等ORテキスト』日科技連出版社 (共著) 1972年
 ②『ORワークブック』日科技連出版社 (共著) 1984年
 論文
 ①「災害における輸送の問題」(共著) 日米ORセミナー 1989年
 ②「21世紀における防衛のあり方」(共著) 防衛庁ORセミナー 1990年
 ③「戦闘シミュレーションについて」(単著) 陸戦研究 12月号 17-34
 1993年
 所属学会 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 経営情報学会
 日本シミュレーション学会



アオブチ マサユキ
氏名 青淵 正幸 AOBUCHI Masayuki
性別 男
生年月日 1966年12月26日生
職名 助教授 (2003年9月)
連絡方法 E-mail : buchi@nuis.ac.jp
学歴 1990年 大東文化大学経済学部経営学科卒業
 1992年 東京国際大学大学院商学研究科商学専攻博士前期課程修了
 1996年 立教大学大学院経済学研究科経済学専攻博士前期課程修了
 2002年 東京国際大学大学院商学研究科商学専攻博士後期課程単位取得退学
学位 修士 (商学) (東京国際大学、1992年3月)
 修士 (経済学) (立教大学、1996年3月)
職歴 1996年4月～1997年3月 信州短期大学経営学科助手
 1997年4月～2001年3月 信州短期大学経営学科専任講師
 2001年4月～2003年8月 信州短期大学経営情報学科専任講師
 1998年4月～2000年3月 立教大学経済学部非常勤講師
 1998年4月～2003年3月 立正大学経済学部非常勤講師
 1999年4月～現在 大東文化大学エクステンションセンター非常勤講師
 2000年4月～2005年3月 長野経済短期大学経済学科非常勤講師
 2003年4月～現在 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科非常勤講師
 2003年4月～現在 東京農業大学生物産業学部非常勤講師
 2005年4月～現在 県立新潟女子短期大学英文学科非常勤講師
研究分野 DCFモデル、Ohlsonモデルによる株主価値の測定や、企業評価、業績評価の実証分析研究を行っています。
主要業績 **著書**
 ①『現代社会の経営学』(共著)(1999年11月、学文社)
 ②『演習経営学』(共著)(2001年1月、新世社)
 ③『例解所得税法入門ゼミナール』(共著)(2003年11月、創成社)
 ④『財務会計の入門講義』(共著)(2004年10月、中央経済社)
 ⑤『ビジネスクリエーターと企業価値』(共著)(2004年10月、創成社)
論文
 ①「測定された株主価値における株価説明力の検証」(年報経営分析研究第19号、日本経営分析学会、2003年3月)
 ②「業種別に見た株主価値による株価説明力の検証」(年報経営ディスクロージャー研究第2号、日本経営ディスクロージャー研究会、2003年4月)
 ③「製造業における株主価値の株価説明力」(工業経営研究第17巻、工業経営研究会、2003年10月)
 ④「DCFモデルによる企業評価－FCFの構成要素別による測定－」(経営哲学第1巻、経営哲学学会、2004年7月)
 ⑤「測定された企業価値と株式の流動性」(年報経営分析研究第21号、日本経営分析学会、2005年3月)
所属学会 日本経営分析学会 (理事)
 日本経営財務研究会
 日本会計研究学会
 日本管理会計学会
 日本経営学会
 日本経営教育学会 (会報委員)
 日本ファイナンス学会
 経営情報学会
 日本オペレーションズ・リサーチ学会 ほか



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

イシイ タダオ
石井 忠夫 ISHII Tadao

男

1955年11月3日生

助教授 (2001年4月)

E-mail : ishii@nuis.ac.jp

1980年 山形大学工学部電子工学科卒業

2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了

工学修士 (山形大学、1982年3月)

博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)

1982年 日立製作所(株)入社、計測器事業部 (旧、那珂工場) において、理化学分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度計、液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年に退社。

2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。

研究分野

- 1) 非標準論理, 特にnon-Fregean logicの体系の研究
- 2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究

主要業績

論文

- ① 「Propositional calculus with identity」, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96-104.
- ② 「A note on varieties of PCI-algebras with EDPC」, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75-81.
- ③ 「Nonclassical logics with identity connective and their algebraic characterization」, March 2000, Doctoral thesis, JAIST.
- ④ 「Propositional calculus with identity」, Proceedings of the 31st MLG meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, pp.22-24.
- ⑤ 「Modality, implication and identity」, XLV History of Logic Conference, October 26-27, Jagiellonian University, Krakow, Poland 1999.
- ⑥ 「An Extension of Martin-Löf's Type Theory with an Evolution Relation」, Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January 9-12, Japan 2001, pp.33-37.

所属学会

日本数学会
日本ソフトウェア科学会
情報処理学会



クワハラ サトル
 氏名 桑原 悟 KUWAHARA Satoru
 性別 男
 生年月日 1956年7月15日生
 職名 助教授 (2001年4月)
 連絡方法 E-mail : kuwahara@nuis.ac.jp
 学歴 1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業
 1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業
 1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了
 学位 工学修士 (東京農工大学、1983年3月)
 職歴 1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任
 2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ
 研究分野 情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットのようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについて研究を行っている。
 主要業績 論文
 ①「大学の役割とIT化に関する一考察」単著 2003.9 情報処理学会 IS研究報告 情報処理学会
 ②「地方私立大学におけるIT利用に関する一考察」単著 2003.3 新潟国際情報大学紀要第6号 新潟国際情報大学
 ③「一般消費者のインターネット利用環境における脅威と対処可能な対抗策」単著 2003.3 情報処理学会第65回全国大会 情報処理学会 桑原
 ④「Mobile phone as secure terminal for e-business」単著 2002.8 Japan-US Joint Seminar on e-business and i.business Satoru KUWAHARA
 ⑤「組織の情報セキュリティ実現のための組織内外の役割とその遂行に必要な教育に関する検討」単著 2001.9 情報処理学会第63回全国大会 情報処理学会 桑原
 ⑥「EC・セキュリティソリューション」2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電機株式会社 佐々木、桑原 他
 ⑦「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」共著 2000.1 (財) 関西情報センタ機関紙 (財) 関西情報センタ 桑原、中村
 ⑧『三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリティの実際』日本テクノセンター セミナー講演 1999年
 ⑨『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』共著 1998.5 三菱電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤
 所属学会 情報処理学会
 日本リスク研究学会
 その他
 ・日本電子署名・認証パートナーシップ運営委員
 ・情報処理技術者試験 (経済産業大臣所管) 試験委員
 ・Information Systems Audit and Control Association会員
 ・CISA (Certified Information Systems Auditor)
 ・CISM (Certified Information Security Manager)



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

学位
職歴
研究分野

コミヤマ サトシ
小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi

男

1969年5月3日生

助教授 (2004年4月)

E-mail : komiyama@nuis.ac.jp

1994年 中央大学文学部社会学科卒業

1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了

1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程中退

社会学修士 (中央大学、1996年3月)

1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師

専門は社会学です。主に統計的な社会調査によって得られたデータを分析し、以下のようなテーマに取り組んでおります (少数事例調査や第二次資料を用いた研究なども行っています)。

- 1) 人々の多様な意識のバリエーションとその生成の仕組みを明らかにすること
- 2) 多様な意識をもつ人々が混在する社会における制度・慣習等についての合意可能性
- 3) 制度・慣習等が人々の意識・行動に与える影響

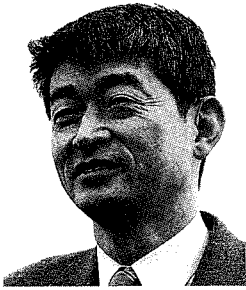
主要業績

論文

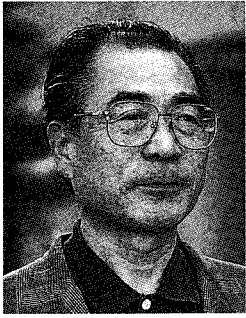
- ① 「Perception of "effort," "Ability," and "Equal Opportunity" in Japanese Society」 (M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be, Ministry of Education, Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report, 09410050, 2000 pp.87-100)
- ② 「三条・燕市製造業者間のデジタルデバインド」 (新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号 pp.103-121 2003年)
- ③ 「地域貢献としての新潟・金属加工市構想」 (共書：宗澤拓郎、小宮山智志、佐々木桐子 情報処理学会研究報告 IS-85(5) : pp.19-26 2003年)
- ④ 「不公平感の地域格差におけるマルチレベル分析の応用」 (紀要 中央大学文学部社会学科第10号 pp.199-213 2000年)
- ⑤ 「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究」 (社会科学研究所年報 第3号 pp.67-79 1999年)
- ⑥ 「日本の公正地図」 (宮野勝[編]『公平感と社会階層』 科研報告書 pp.195-214 1998年)
- ⑦ 「高齢者自殺率の都道府県格差を説明するモデルの構築」 (大学院研究年報 第27号 pp.159-174 1998年)
- ⑧ 「新聞における公正」 (宮野勝[編]『日本人の公正観』 中央大学社会科学研究所報告書 第17号 pp.193-202 1996年)
- ⑨ 「公正観の深層理解:自由面接データの分析」 (宮野勝[編]『社会的公正の研究:理論実証・応用』 科研報告書 pp.154-165 1996年)

所属学会

数理社会学会
日本社会学会
関東社会学会
日本行動計量学会



氏名	ヒラタ トオル 平田 透 HIRATA Toru
性別	男
生年月日	1952年3月8日
職名	助教授 (2003年4月)
連絡方法	E-mail : hirata@nuis.ac.jp
学歴	1975年 北海道大学工学部電気工学科卒業 1977年 北海道大学経済学部経済科卒業 2000年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士前期課程修了 2003年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了
学位	博士 (知識科学 北陸先端科学技術大学院大学、2003年3月)
職歴	(株)東急総合研究所主任研究員、関東学院大学非常勤講師を経て 富山短期大学専任講師・助教授 (1990年4月~2002年3月)
研究分野	①e-マーケティング:インターネットの発達により、従来型の流通や企業のマーケティング活動は変革の時期にあり、新しい方法論が求められている。このような変化に対してのこれからのマーケティングの考え方や具体的展開のありかたについて研究を行っている。 ②ナレッジ・マネジメント:無形資産である知識の活用は、21世紀における企業の競争力を左右する。知識創造理論をベースとして、企業のイノベーションプロセスにおける知識創造・移転のケース研究を行っている。 ③知的財産戦略:知識の中でも、法的な権利として確立されている知的財産権を対象に、企業の知的財産戦略と知的財産マネジメント組織について研究を行っている。
主要業績	著書 ①『知的経営実践論』共著 白桃書房 2001年 ②『イノベーションとベンチャー企業』共著 八千代出版 2002年 ③『価値創造システムとしての企業』共著 学文社 2003年 ④『知的財産マネジメント』共著 中央経済社 2004年 論文 ①「流通分野の情報ネットワーク化に関する考察」オフィス・オートメーション学会論文誌『情報系』第4号 ②「日本企業の知的財産戦略と組織機能」『富山短期大学紀要』N0.36.1996年 ③'Changing Roles of Intellectual Property Division in Japanese Firms' Proceedings Vol-2papers:Presented at PICMET '01 2001年
所属学会	組織学会、研究・技術計画学会、日本商業学会、経営情報学会、日本知財学会 オフィス・オートメーション学会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

オオヤマ タケシ
大山 毅 OHYAMA Takeshi
男

1940年3月2日生

講師 (1994年4月)

E-mail : ohyama@nuis.ac.jp

1964年 神奈川大学工学部応用化学科卒業

学士 (工学、1964年3月)

1964年4月～1966年2月 川口化学工業株式会社

1966年4月～1994年3月 慶應義塾大学理工学部

研究分野

人間工学の立場から人間の特性およびその測定方法について研究しています。
また、職場や家庭など生活のあらゆる場面において、人間が「快適」であるための条件を探り、「快適」であることを実現することをめざしています。

主要業績

論文

- ①「四日市コンビナートの事故におけるヒューマンエラーの分析」(共著)
(1990.12.12, Technical Report No.90003, Department of Administration
Engineering Faculty of Science and Technology Keio University)
- ②「超音波探傷における作業姿勢の影響」(共著)(日本設備管理学会誌 Vol.5
No.1, 8-15,1993)
- ③「手動制御系における予測情報の効果」(人間工学 Vol.29 No.5,313-
319,1993)
- ④「コンビナートにおけるヒューマンエラーの相関分析」(1993.4.2,
Technical Report No.93004, Department of Administration Engineering
Faculty of Science and Technology Keio University)
- ⑤「反応時間に関する一研究」(1993.5.10,Technical Report No.93009,
Department of Administration Engineering Faculty of Science and
Technology Keio University)

所属学会

日本人間工学会
バイオメカニズム学会
日本設備管理学会
情報文化学会

その他

日本人間工学会評議員



氏名 小野 陽子 ONO Yoko
 性別 女
 生年月日 1971年12月19日生
 職名 講師(2005年4月)
 連絡方法 E-mail : onoyk@nuis.ac.jp
 学歴 1996年 東京理科大学工学部経営工学科卒業
 1998年 東京理科大学大学院 工学研究科 修士課程 経営工学専攻修了
 2001年 東京理科大学大学院 工学研究科 博士課程 経営工学専攻修了
 学位 博士(工学)、(東京理科大学、2001年3月)
 職歴 2001年4月～2004年3月 東京理科大学 助手
 2002年4月～2004年3月 芝浦工業大学 非常勤講師
 2004年4月～2005年3月 島根県立大学 講師
 研究分野 計算機統計学、代数の形式化と計算機上での自動証明システム構築
 主要業績 論文
 ① Random generation of $2x \cdots x 2x$ J contingency tables. Matsui T., Matsui Y. and Ono, Y., Theoretical Computer Science 326 (2004) 117-135.
 ② Symbolic Algorithms for obtaining Moments and "Moments of Moments" of Bootstrap Distributions, Ono, Y. and Niki, N., Journal of Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation, vol.8, No.2 (2001) 37-48
 ③ On Computer Education in Japan, Ono, Y. and Ashai, Y., Proceedings of the International Conference the Humanistic Renaissance in Mathematics Education (2002) 285-287.
 ④ Random Generation of $B_m \times$ Contingency Tables, Matsui, T., Matsui, Y. and Ono, Y., Proceedings of the International Conference on Statistics, Combinatorics and Related Areas (2001)
 ⑤ Product Moments of Nested Bootstrap Distributions, Ono, Y. and Niki, N. Bulletin of the 53rd Session of the International Statistical Institute (2001)
 ⑥ Moments and Product Moments of Bootstrap Distributions. Ono, Y., Hashiguchi, H. and Niki, N., Bulletin of the 52nd Session of the International Statistical Institute (1999) 63-64.
 ⑦ On Bootstrap Approximation, Ono, Y., Niki, N. and Hashiguchi, H., Proceedings of the 9th Korea and Japan Joint Conference on Statistics (1997) 192-196.
 訳本
 ① 「応用Mathematica」(2004年9月、新紀元社)
 所属学会 日本統計学会、日本計算機統計学会



氏名 河原 和好 KAWAHARA Kazuyoshi
 性別 男
 生年月日 1969年9月8日生
 職名 講師 (1999年4月)
 連絡方法 E-mail : kawahara@nuis.ac.jp
 学歴 1993年 信州大学工学部情報工学科卒業
 1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了
 1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了
 学位 博士 (工学) (信州大学、1998年3月)
 職歴 1998年4月～1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤
 研究員
 研究分野 画像処理に関する研究。ファジィ理論の画像処理への応用 (個人研究)、医療
 用画像処理 (国内共同研究)、3次元画像処理 (個人研究)。
 主要業績 論文
 ① 「ファジィテンプレートを基にしたファジィ位相とその画像処理への応用」
 (共著)、1994年2月、信州大学工学部紀要 第74号、pp.113-122
 ② 「FINITE TOPOLOGY BASED ON FUZZY TEMPLATES AND ITS
 APPLICATIONS」 (共著)、1994年11月、Proc.of the 1st MAGNETO-ELEC-
 TRONICS International Symposium、PP.461-464
 ③ 「Image Processing with Fuzzy Set Theory」 (共著)、1995年12月 Second
 Asian Conference On Computer Vision (ACCV'95)、Vol. I pp.494-498
 ④ 「ファジィ理論を用いた画像処理」 (共著)、1997年1月、電子情報通信学会
 論文誌 D-II、Vol.J80-D-II、No.1、pp.166-174
 ⑤ 「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with
 Fuzzy Set」 (共著)、1997年12月、Proc.of International Symposium on
 Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA'97)、Vol.2、pp.1013-1016
 ⑥ 「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」 (共著)、1997年12月
 Proc.of IEEE TENCON'97 (IEEE Region 10 Annual Conference) Speech
 and Image Technologies for Computing and Telecommunications、Vol.1
 pp.333-334
 ⑦ 「Edge Analysis of Digital Mammogram」 (共著)、1999年10月、Proc.of 2nd
 MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium、pp.339-342
 所属学会 電子情報通信学会
 情報処理学会
 医用画像学会



氏名 佐々木 桐子 SASAKI Toko
 性別 女
 生年月日 1972年2月22日生
 職名 講師 (2001年4月)
 連絡方法 E-mail : tohko@nuis.ac.jp

学歴 1994年 東洋大学経営学部経営学科卒業
 1996年 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了
 1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生
 2001年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学
 経営学修士 (東洋大学、1996年3月)

学位 歴
 職 歴
 研究分野

より大規模かつ複雑化する生産・ロジスティクスシステムを対象とし、シミュレーション技術を応用した詳細かつ柔軟なモデル構築および解析を行っている。構築したモデルに、既存企業の“as-is”、“to-be”の生産・ロジスティクスシステムに関するデータを入力し、より詳細な比較・検討を行う。

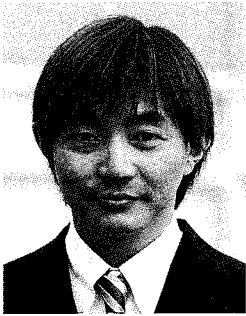
主要業績

論文

- ① 「ロジスティクスにおけるリエンジニアリング」『東洋大学大学院紀要』第32集、pp.111-137、1995.
- ② 「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18, No.4-2, pp.99-102, 1997.
- ③ 「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18, No.4-2, pp.133-136, 1998.
- ④ 「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」『オフィス・オートメーション』Vol.20, No.3, pp.76-82, 2000.
- ⑤ “A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities”, Studies in Informatics and Sciences, No.13, pp.81-89, 2001.

所属学会

オフィス・オートメーション学会
 日本生産管理学会
 日本経営システム学会



氏名 ヤマダ ヒサシ 山田 尚史 YAMADA Hisashi
 性別 男
 生年月日 1970年8月13日生
 職名 講師 (2005年4月)
 連絡方法 E-mail : yamada@nuis.ac.jp
 学歴 1994年 学習院大学経済学部経済学科卒業
 2001年 Manchester Business School, University of Manchester, UK MBA Programme
 2004年 学習院大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学
 学位 経営学修士(Master of Business Administration)
 職歴 1994年～1999年 前田建設工業株式会社
 2004年～2005年 学習院大学経済学部非常勤講師
 研究分野 専門は経営学。現在は、インターネット市場に関する以下の研究を行っている。
 ①インターネット市場と店頭市場の比較 (価格、価格の分散、情報の質等)
 ②インターネット市場における販売業者の信用の重要性や企業行動の違いについて
 ③時系列データに基づいたインターネット市場の変化
 主要業績 著書
 「ケースで学ぶ価格戦略・入門」 上田隆穂編、「日本マクドナルド～スケールメリットを追及する装置産業型外食企業の価格・商品戦略」 (共著)、有斐閣、pp13-35、2003年。
 論文
 ①「インターネット市場における販売業者の信用と情報の質に関する実証分析」 経営情報学会2004年春季研究発表大会、pp82-85、2004年。
 ②「インターネット市場における販売業者の信用と情報の質に関する実証分析」 学習院大学大学院経済学研究科・経営学研究科 学習院大学大学院研究論集 第13巻1号、pp1-18、2004年。
 ③「インターネット市場の効率性:インターネット市場と店頭市場の価格差とばらつきの比較を通じて」 2003年組織学会研究発表大会、pp65-68、2003年。
 ④「インターネット市場における価格のばらつきが増大する要因:販売業者の信用の重要性」 学習院大学大学院経済学研究科・経営学研究科 学習院大学大学院研究論集 第12巻1号、pp19-37、2003年
 所属学会 組織学会
 経営情報学会

新潟国際情報大学研究者総覧 2005

2005年4月発行

編集：新潟国際情報大学 総務課

発行：新潟国際情報大学

新潟市みずき野3丁目1番1号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies